

积迦新田遺跡2

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書4

平成29年3月

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

し ゃ か し ん で ん
积水新田遺跡 2

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書4

平成29年3月

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所による首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施した、茨城県猿島郡五霞町积迦新田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、平成21・22年度の調査に引き続き、縄文時代の遺物包含層、中世の墓域に関連する遺構が明らかになりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知るうえで、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所に厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、五霞町教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 野口 通

例　　言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財團が平成 27 年度に発掘調査を実施した、茨城県猿島郡五霞町大字積進字地蔵前 2411-1 番地ほかに所在する積進新田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成 27 年 9 月 1 日～平成 27 年 10 月 31 日
整理 平成 28 年 9 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	駒澤 悅郎
次席調査員	作山 智彦
調査員	大久保芳紀
- 4 整理及び本書の編集・執筆は、整理課長後藤一成のもと、調査員大久保芳紀が担当した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 14.160 m, Y = - 8.240 mの交点を基準点（A 1 al）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3 … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 al 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構	P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列 SB - 挖立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡
SK	- 土坑 HG - 遺物包含層
遺物	DP - 土製品 Q - 石器・石製品
土層	K - 扰乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は 400 分の 1, 各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	施釉		溶着材		炭化材
●	土器	□	石器・石製品		

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 遺構の主軸は、長軸（径）方向とみなした。長軸・長径方向は、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、整理段階で遺構名を変更したものは以下のとおりである。

変更 SK241 → SK327, SK242 → SK328, SK248 → SA 3 P 2, SK311 → 第5号火葬施設, SD24 → SD 1,
PG 6 P 85 → SB 2 P 1, PG 6 P 93 → SB 2 P 2, PG 6 P 89 → SB 2 P 3, PG 6 P 97 → SB 2
P 4, PG 6 P 90 → SB 2 P 5, PG 6 P 84 → SB 3 P 1, PG 6 P 86 → SB 3 P 2, PG 6 P 92 →
SB 3 P 3, PG 6 P 88 → SB 3 P 4, PG 6 P 95 → SB 3 P 5, PG 6 P 90 → SB 3 P 6, PG 6
P 96 → SB 3 P 7

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
糸迦新田遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	11
1 繩文時代の遺構と遺物	11
(1) 土坑	11
(2) 遺物包含層	16
2 中世の遺構と遺物	21
(1) 火葬施設	21
(2) 土坑	22
3 近世の遺構と遺物	28
(1) 土坑	28
(2) 溝跡	28
4 その他の遺構と遺物	33
(1) 掘立柱建物跡	33
(2) 井戸跡	36
(3) 土坑	36
(4) 溝跡	41
(5) 柱穴列	41
(6) ピット群	45
(7) 遺構外出土遺物	47
第4節 まとめ	51
写真図版	PL 1 ~ PL 6
抄 錄	
奥 付	
付 図	

しあわせの里 駿河新田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

駿河新田遺跡は、猿島郡五霞町の北部に位置し、利根川右岸の標高 10 m ほどの低台地上に立地しています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に先立ち、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 27 年度に、遺跡の中央部にあたる 1,351m²について発掘調査を行いました。



調査の内容

平成 21・22 年度に引き続き 3 回目の調査になります。調査の結果、縄文時代（約 4,500～4,000 年前）の土坑 8 基、遺物包含層 1 か所、中世（約 700～400 年前）の火葬施設 1 基、土坑 30 基、近世（約 400～150 年前）の溝跡 4 条などを確認しました。主な出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師質土器（小皿）、陶器（皿・鉢・天目茶碗・擂鉢・瓶カ）、瓦質土器（燔焰・火鉢）、石器（鎌・石皿・磨石・凹石・砥石・剥片）、土製品（円筒埴輪・羽口）などです。



調査区遠景（東上空から）



調査区全景



中世の土坑



縄文時代の土坑から遺物が出土した様子



縄文時代の土坑から出土した土器

調査の成果

縄文時代の遺物包含層からは、多くの縄文土器が出土しました。土器片を観察すると、角が取れたものや表面が磨滅したものが多く、出土している土器から中期末葉に斜面に遺物を含んだ土が流れ込んで形成されたと考えられます。

中世の遺構は、墓坑と考えられる長方形の土坑や火葬施設を確認し、前回の調査と同様に、墓域として利用されていたことが分かりました。

近世には耕作地になっていたと考えられ、地割を目的とした溝跡を確認することができました。

また、円筒埴輪の破片が1点見つかりました。小さな破片ですが、近くに古墳が存在していた可能性があります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成16年12月15日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、首都圈氾濫区域堤防強化対策事業地内における埋蔵文化財の所在の有無、及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年2月28日に現地踏査を、平成26年8月21日及び10月9日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成26年10月29日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、事業地内に积迦新田遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成26年12月25日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成27年1月15日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月27日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成27年3月6日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、积迦新田遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財團法人茨城県教育財團を紹介した。

公益財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年9月1日から平成27年10月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

积迦新田遺跡の調査は、平成27年9月1日から10月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	9月	10月
調査準備 表土除去 去 遺構確認			
遺構調査			
遺物洗浄 注写 整理			
撤取			

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

积迦新田遺跡は、茨城県猿島郡五霞町大字积迦字地蔵前 2411 - 1番地ほかに所在している。

五霞町は、茨城県の南西部、利根川以南に位置しており、北を利根川、東を江戸川、西から南にかけてを権現堂川によって南北約 4.3km、東西約 5.0km に区画されている。町域の地形は、利根川及び中・小河川によって開拓された低地と五霞台地と呼ばれる低位段丘群によって構成されている。五霞台地は、猿島台地の南西部が江戸時代の利根川東遷により、切り離されたことで形成された低位段丘群である。町内の標高は、おむね北西部から南東方向に標高が低下する。最高標高は 17.5 m、最低標高は 9 m で、平均標高は約 12 m である。

利根川流域に広がる低台地の地質は、新生代第四紀沖積層が中心で、約 1 万年前までの新しい時代の堆積層によって形成されている。また、この沖積層の下には第四紀洪積層後期に形成された洪積層が堆積しており、下層から竜ヶ崎砂礫層、常緑粘土層、関東ローム層に分層される¹⁾。

五霞町周辺の現在の利根川流域には、沖積低地と洪積台地が広がっている。利根川の北側では、利根川の支流によって開拓された谷津が広がり、谷津から洪積台地にかけて遺跡が存在している。また、利根川の南側は、広大な冲積低地が広がり、その中に点在する標高 10 ~ 13 m ほどの低台地上に遺跡が確認されている。当遺跡は、現在の利根川が流れる低地に面した標高 10 m ほどの低台地上に位置している。

遺跡周辺の土地利用状況は主に耕作地と宅地であり、遺跡の現況は宅地、山林及び地蔵堂跡であった。

第2節 歴史的環境

ここでは、积迦新田遺跡が所在する五霞町域周辺の遺跡²⁾を中心に概要を述べる。

旧石器時代は、土塔貝塚（江川貝塚）（18）で石器集中地点が確認され、ナイフ形石器などが確認されている³⁾。現在の利根川以北では、黒羽遺跡（65）や日下部遺跡（67）で細石刃核や剥片が確認されている⁴⁾。

縄文時代の五霞町周辺は、縄文海進により南から奥東京湾が、東から古鬼怒湾が奥深く浸入して、当時の海域に半島状に延びる猿島台地（五霞台地）の先端部に位置している。町内では、台地縁辺部に多くの遺跡や貝塚が分布している⁵⁾。

これまでの調査により、寺山遺跡（51）、宿北遺跡（58）で早期の土器を伴う土坑が確認されている⁶⁾。海進が最も進んだ前期は、遺跡数が多くなる時期で、居住に適した環境であったと想定される。当期の遺跡は、町域の東側に遺跡の集中が見られる。山王山貝塚（16）、土塔貝塚（江川貝塚）（18）、山王裏B遺跡⁷⁾などが確認されている。土塔貝塚（江川貝塚）で確認された黒浜・諸磯a式期の地点貝塚は鹹水種によって構成され、奥東京湾沿岸地域であったと考えられる⁸⁾。その他に、坂間遺跡（34）、石畠遺跡（40）⁹⁾、宿東遺跡（59）¹⁰⁾などが確認されている。中期は、町域の北部に遺跡が多く立地する傾向が見られる。これは、海退により、干潟域が広がったために、居住域が移動したことに伴うと考えられている。本遺跡のほかに、榎戸遺跡（2）、小手指貝塚（42）、上原遺跡（47）¹¹⁾などが確認されている。後期には、海退が進み、周辺海域は汽水域に変化したことが、冬木A貝塚（22）¹²⁾ や土塔貝塚（江川貝塚）¹³⁾の調査から判明している。遺跡の立地も海岸線を追うように、南側に移動し、石畠遺跡¹⁴⁾ や土塔貝塚（江川貝塚）など前期の遺跡と同じ地域に多く見ら

れるようになる。晩期に入ると、^{冬木B貝塚}（21）では、汽水種とともに淡水種も確認されており¹⁵⁾、さらに海岸線は後退し、河川の下流域の三角州が出現する地形に変化し、淡水化していったと考えられる。

古墳時代の遺跡は、^{同所新田遺跡}（13）で前期の方形周溝墓1基¹⁶⁾、寺山遺跡で中期の竪穴建物跡5棟や後期の古墳1基、瀬沼遺跡で後期の竪穴建物跡1棟¹⁷⁾を確認している¹⁸⁾。また、元栗橋地区の三島神社古墳（28）、痕塚古墳（35）と、川妻・小手指地区の伊勢塚古墳（46）、上原古墳（48）、穴薬師古墳（54）の二つの大規模な古墳の分布のまとまりが見られる¹⁹⁾。

中世に入り、五霞町を含めた古利根川、太日川流域には、下河辺莊が成立する。現在の古河市から越谷市北部まで南北に長い領域を含む下河辺莊は、野方・河辺・新方の三地域に区分されていたことが知られ、当町域はこのうちの河辺に属していた。領主として、当初は秀郷流小山氏の庶流下河辺氏が、宝治合戦（1247年）以降には北条氏一族が支配していた。室町時代に入ると、鎌倉府の御料所の一つとして支配される²⁰⁾。足利成氏が古河に移座すると、鎌倉から奥州へ伸びる奥大道が通過し、古利根川・常陸川の水上交通の要所でもあるこの地域を治める重要性は高まるようになる。五霞町には野田氏の居城である城山城跡（栗橋城跡）（30）、古河市には塙田氏一族の居城である水海城跡（70）、千葉県野田市には塙田氏嫡流家の居城である関宿城跡、埼玉県幸手市には一色氏の居城と考えられる陣屋（幸手市No.3遺跡）など、古河公方の重臣による城館が設けられたことが知られている。また、町内で発掘調査が行われた当期の遺跡としては、石畠遺跡で方形竪穴造構14基などが²¹⁾、新田遺跡（15）で掘跡1条や方形竪穴造構8基、地下式坑3基が²²⁾、瀬沼遺跡で墓坑11基や火葬施設41基が²³⁾、桜井前遺跡で火葬施設4基や方形竪穴造構9基、地下式坑4基などが²⁴⁾それぞれ確認され、中世の集落や墓域が明らかになっている。また、羽黒遺跡では河川工事の工事分担を示した表示札と考えられる木簡が出土している²⁵⁾。

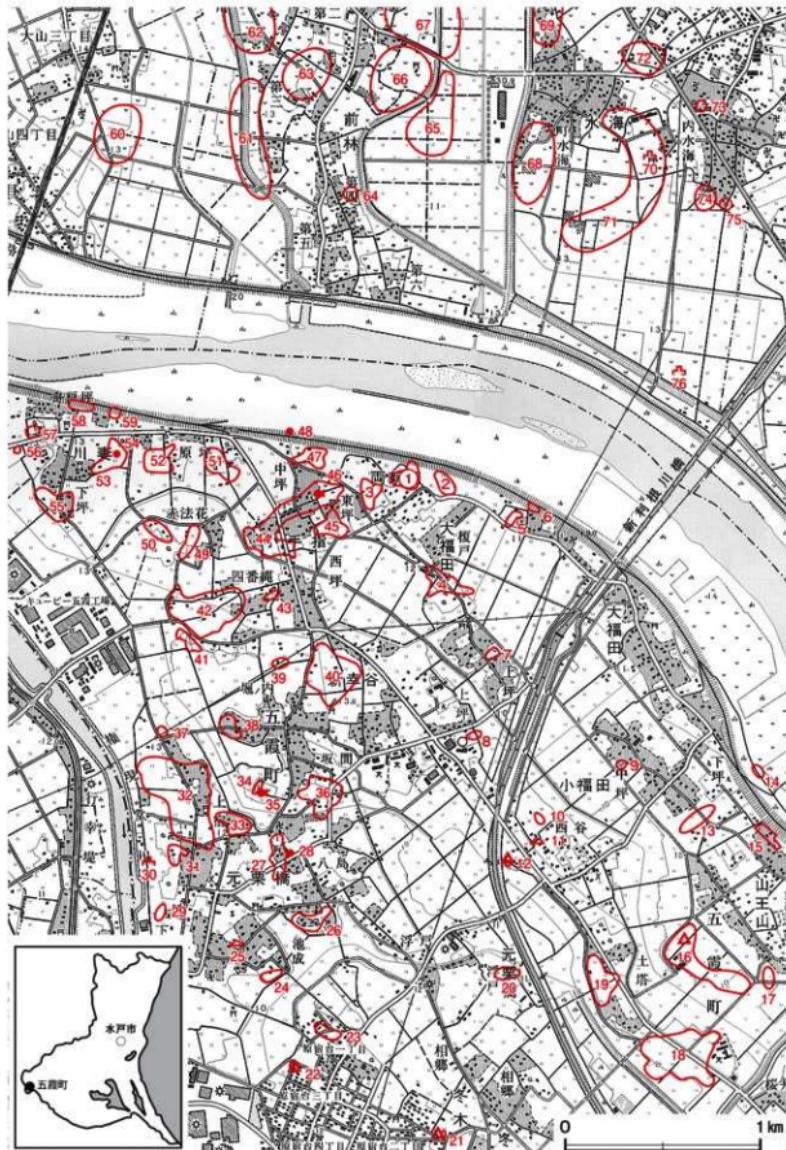
江戸時代初頭、「利根川東遷」と呼ばれる大規模な河川改修工事の一環で元和7年（1621年）から三度にわたる赤堀川開削により、奥州から鬼怒川を下り、さらに利根川や江戸川を下って江戸へと至る輸送ルートが成立した。経由地としての役割を担うようになる対岸の境町に位置する境河岸は、正保期（1644～1647年）に関宿城の城下町として機能するようになった²⁶⁾。一方、五霞町周辺では、洪水被害が頻発するようになった²⁷⁾。町内の当期の遺跡として、新田遺跡で水塚を配置した屋敷跡が、上原遺跡で輪宝墨書き土器が出土した掘込地業遺構などが、^{殿山塚}（6）で塚が調査されている²⁸⁾。江戸時代後期では、同所新田遺跡において製鉄関連遺構が確認され、製鉄もしくは鉄製品の再加工を行っていた工人集団の存在が推測される²⁹⁾。さらに、瀬沼遺跡からは江戸時代後期の船着場が確認され³⁰⁾、水上交通が日常生活や経済活動の中で重要な位置をしめていたことが推測される。

※ 文中の（）内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は、既刊の『茨城県教育財团文化財調査報告』第352集をもとに、改編したものである。

註

- 1) 成島一也「石畠遺跡」12県単道改第12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第192集 2002年3月
- 2) 茨城県教育庁文化課編「茨城県遺跡地図（地名編・地図編）」茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 須藤正美「土塔貝塚 瀬沼遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第289集 2008年3月
- 4) 総和町史編さん委員会「総和町史 通史編 原始・古代・中世」2005年7月

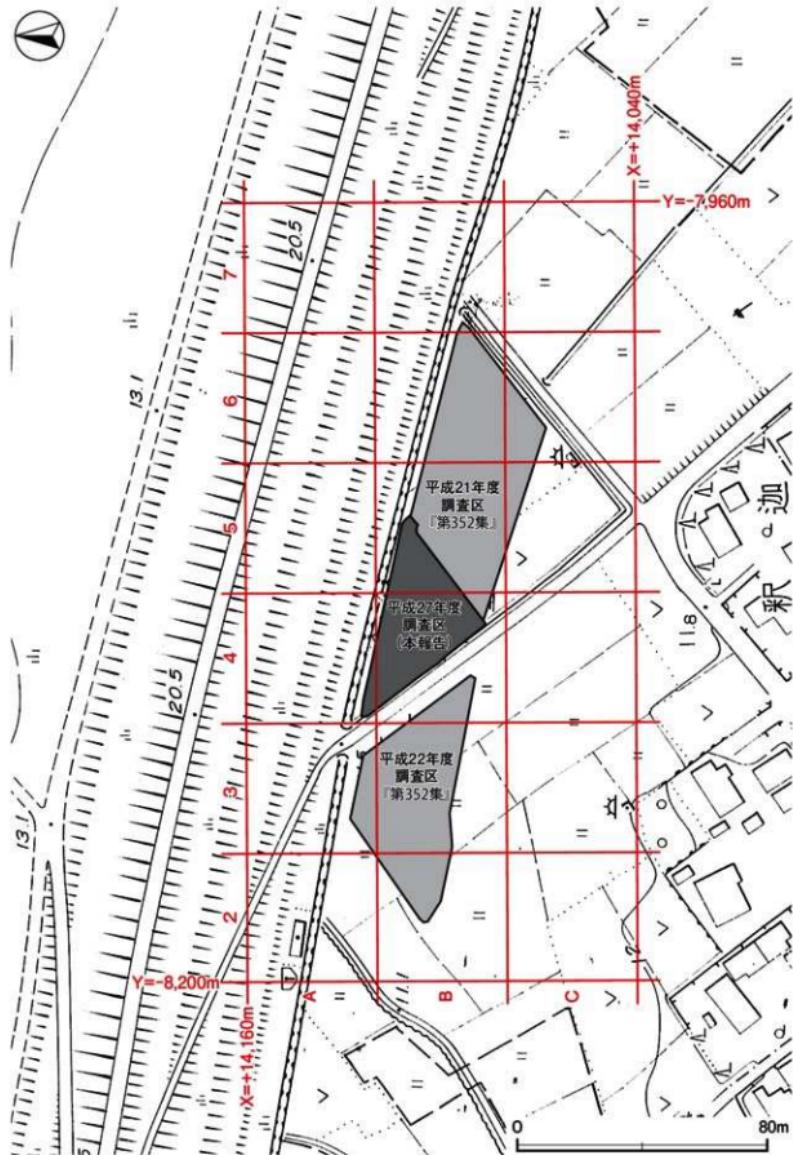
- 5) 五霞町史編さん委員会「町史 五霞の生活史 水と五霞」 2010年3月
- 6) 近江屋成陽「宿北遺跡 宿東遺跡 寺山遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書2」「茨城県教育財団文化財調査報告」第383集 2014年3月
- 7) 佐々木守・小林正紀「山王裏B遺跡 町道55号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」五霞町教育委員会 2003年9月
- 8) 註3に同じ
- 9) a 瓦吹堅・橋本勉・藤原均「石畳遺跡－I地区発掘調査報告－」茨城県猿島郡五霞村教育委員会 1977年3月
b 註1に同じ
- 10) 註6に同じ
- 11) 佐藤一也「新田遺跡 上原遺跡 殿山塚 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書3」「茨城県教育財団文化財調査報告」第396集 2015年3月
- 12) 高村勇・根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 冬木A貝塚 冬木B貝塚」「茨城県教育財団文化財調査報告」第IX集 1981年3月
- 13) 註3に同じ
- 14) 註9に同じ
- 15) 註12に同じ
- 16) 桑村裕「同所新田遺跡 清水遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第290集 2008年3月
- 17) 註3に同じ
- 18) 註6に同じ
- 19) 五霞町史編さん委員会「町史 五霞の生活史 地誌」 2013年3月
- 20) 註5に同じ
- 21) 註9に同じ
- 22) 註11に同じ
- 23) a 註3に同じ
b 本橋弘巳「同所新田遺跡2 潤沼遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第312集 2009年3月
- 24) 桑村裕「桜井前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第288集 2008年3月
- 25) 胸澤悦郎「羽黒遺跡 一级河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書1」「茨城県教育財団文化財調査報告」第202集 2003年3月
- 26) a 註5に同じ
b 塙町史編さん委員会「下総 境の生活史 国説・境の歴史」 2005年3月
- 27) 註5に同じ
- 28) 註11に同じ
- 29) a 註16に同じ
b 註23 bに同じ
- 30) 註3に同じ



第1図 积迦新田遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「境・鴻巣」）

表1 積迦新田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	积迦新田遺跡	○			○		39	洛塚遺跡	○						
2	榎戸遺跡	○					40	石畠遺跡	○			○	○		
3	元宿遺跡	○		○			41	内肥土遺跡	○						
4	輪荷原遺跡	○					42	小手指貝塚	○						
5	殿山遺跡	○	○				43	小手指下宿	○		○				
6	殿山塚					○	44	台遺跡	○	○	○	○	○		
7	東中村遺跡	○					45	小手指上宿	○			○			
8	福田遺跡	○					46	伊勢塚古墳				○			
9	西上手遺跡					○	47	上原遺跡	○				○		
10	八幡西遺跡	○					48	上原古墳			○				
11	土塔塚遺跡					○	49	赤法花遺跡	○						
12	診療所前貝塚	○					50	新久遺跡	○						
13	同所新田遺跡	○	○	○	○	○	51	寺山遺跡	○	○	○				
14	原山遺跡	○					52	大崎遺跡	○						
15	新田遺跡	○			○		53	大崎穴薬師遺跡	○						
16	山王山貝塚	○					54	穴薬師古墳			○				
17	西新畠遺跡	○					55	堤外遺跡	○	○	○				
18	土塔貝塚(江川貝塚)	○	○		○		56	沼ノ台遺跡				○			
19	土塔遺跡	○					57	墓化遺跡					○		
20	浮戸遺跡	○					58	宿北遺跡	○			○	○		
21	冬木B貝塚	○					59	宿東遺跡	○			○	○		
22	冬木A貝塚	○					60	宮前遺跡	○		○				
23	丸池台遺跡	○					61	小台山遺跡	○	○	○	○			
24	池成遺跡	○		○			62	磯ノ井遺跡	○		○	○			
25	池成塚	○	○	○	○		63	大道北遺跡			○	○			
26	田端遺跡				○	○	64	台古墳群				○			
27	三島神社遺跡	○	○	○	○		65	羽黒遺跡	○	○	○	○	○	○	○
28	三島神社古墳			○			66	篠山遺跡	○			○			
29	仲町遺跡		○	○			67	下都遺跡	○	○	○	○	○	○	
30	城山城跡(栗橋城跡)				○		68	三島前遺跡		○	○	○			
31	城山遺跡			○			69	住吉遺跡	○		○	○			
32	上船戸遺跡	○	○	○	○		70	水海城跡				○	○		
33	切通遺跡	○		○			71	神明西遺跡			○	○			
34	坂間遺跡	○		○	○		72	白山台遺跡			○	○			
35	痕泉塚古墳			○			73	道場女遺跡	○		○	○	○		
36	橋向遺跡	○			○	○	74	表ノ前遺跡	○		○	○	○		
37	古桶遺跡	○		○	○	○	75	表ノ前経塚						○	
38	堀の内遺跡					○	76	伝水海城跡					○		



第2図 积迦新田遺跡調査区設定図（五霞町都市計画図 2,500 分の 1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

糸迦新田遺跡は、五霞町の北部に位置し、利根川右岸の標高10mほどの低台地上に立地している。平成21-22年度の調査では、縄文時代の竪穴建物跡2棟、中世の方形窓穴造構や火葬施設など墓域に関連する遺構、近世の堀跡などが調査されている。今回の調査区は、平成21年度調査区と平成22年度調査区の間で、調査面積は1.351haである。調査前の現況は、宅地・森林・地蔵堂跡であった。

調査の結果、掘立柱建物跡3棟（時期不明）、井戸跡1基（時期不明）、火葬施設1基（中世）、土坑76基（縄文時代8・中世30・近世1・時期不明37）、溝跡7条（近世4・時期不明3）、柱穴列4条（時期不明）、ビット群1か所（時期不明）、遺物包含層1か所（縄文時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に7箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師質土器（小皿）、陶器（皿・鉢皿・天目茶碗・擂鉢・瓶カ）、瓦質土器（焰塔・火鉢）、石器（鎌・石皿・磨石・凹石・砥石・剥片）、土製品（円筒埴輪・羽口）などである。

第2節 基本層序

調査区東北端のB5c6区北壁にテストピットを設定し、深さ13mまで掘り下げる基本土層の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

第1層から第3層までは現代の造成土である。

第1層は、灰褐色を呈し、粘性は弱く、縮まりは強い。層厚は15～20cmである。

第2層は、灰褐色を呈し、粘性は普通で、縮まりは強い。層厚は30～35cmである。

第3層は、褐灰色を呈し、灰褐色の粘土ブロックを少量含み、粘性・縮まりとも普通である。層厚は8～13cmである。

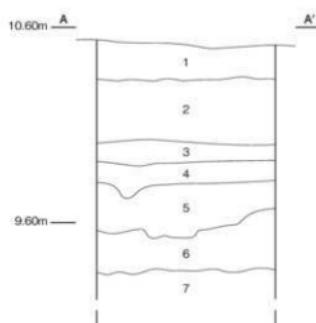
第4層は、黒褐色を呈する旧表土である。前回調査の第2層に相当し、シルト粒子を少量含み、粘性は普通で、縮まりは弱い。層厚は10～17cmである。

第5層は、暗褐色を呈したシルト粒子を多量に含んだ暗褐色の層で、粘性・縮まりとも普通である。前回調査の第3層に相当すると見られ、今回調査では、層中から縄文時代中期の土器や石鎌などが出土し、遺物包含層として報告している。層厚は15～28cmである。

第6層は、明褐色のシルト質層である。粘性は極めて強く、縮まりは普通である。層厚は16～31cmである。

第7層は、褐色の粘土層である。粘性・縮まりとも極めて強い。層厚は18cmまで確認したが、それ以下は未掘のため不明である。

遺構は第5層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑8基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

今回の調査で、出土遺物や重複関係から、縄文時代と見られる土坑8基を確認した。以下、遺構の形状や特色のある遺物が出土している5基について、本文と実測図で解説する。その他の土坑については、実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

第281号土坑（第4・5図 PL 1）

位置 調査区中央部のB5b1区、標高9.7mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.11m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。深さは24cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

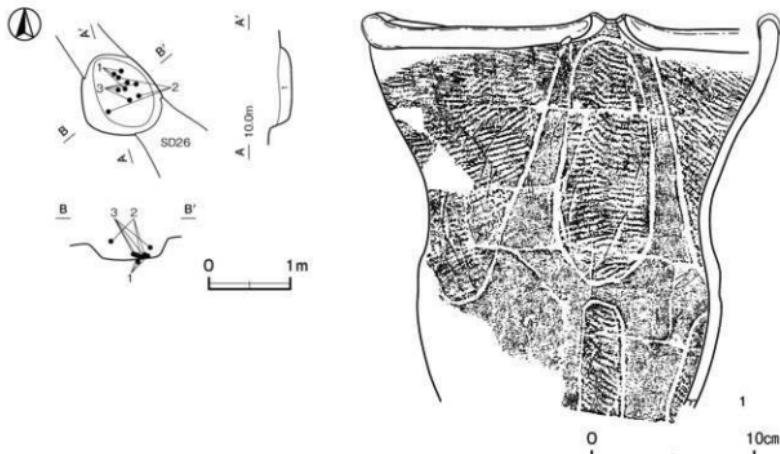
覆土 単一層である。多量の遺物とともに、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 シルト粒子多量

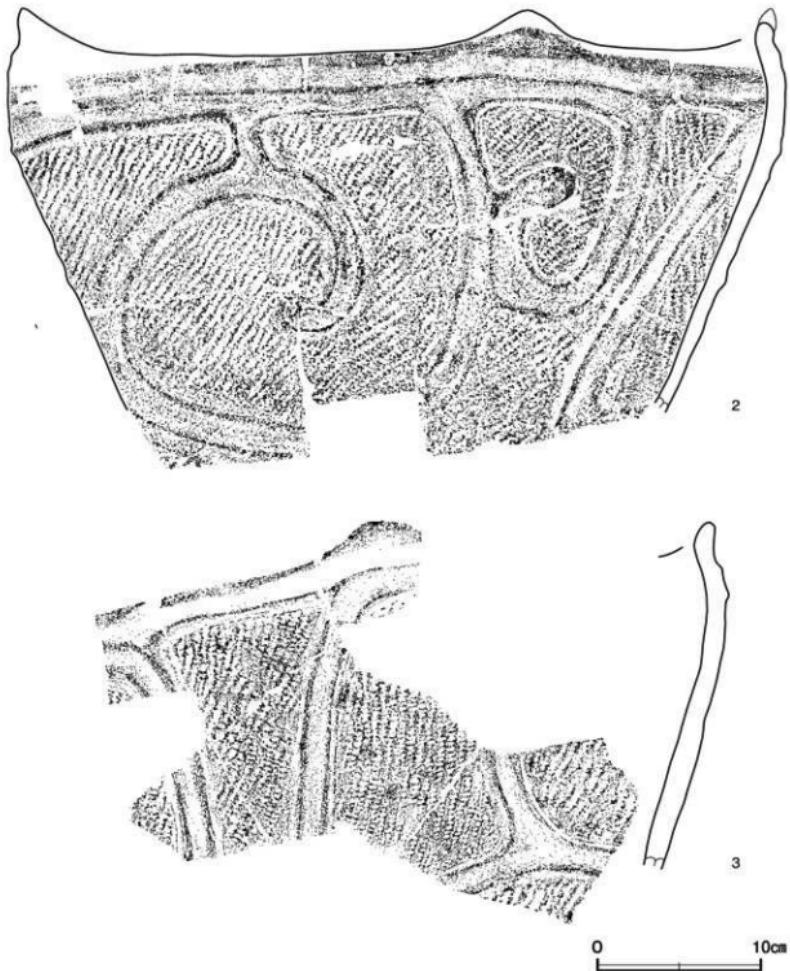
遺物出土状況 縄文土器86点(深鉢)が出土している。1~3は、覆土上層から底面で出土した破片がそれぞれ接合したものである。また、1・3は、第322号土坑と第1号遺物包含層から出土した遺物と接合している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。覆土中から多量の遺物が出土し、接合関係が認められた



第4図 第281号土坑・出土遺物実測図

ことから、廃棄土坑として使われたと考えられる。



第5図 第281号土坑出土遺物実測図

第281号土坑出土遺物観察表（第4・5図）

番号	種別	層位	口径	壁高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	圓文土器	深井	24.5	(24.2)	-	長石・石英	褐	普通	表面に月牙状突起と環状溝文。内・外周部に無文。	覆土中層一 底面	中層と表層同 様式
2	圓文土器	深井	[50.0]	(25.0)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい褐	普通	表面に上る溝文・無文。内・外周部に無文。	覆土上層一 底面	中層と表層同 様式
3	圓文土器	深井	-	(21.3)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい褐	普通	表面を骨片焼成による区段・溝筋溝文。内・外周部に無文。	覆土中層一 底面	中層と表層同 様式

第313号土坑（第6図 PL 1）

位置 調査区中央部のB 4b0区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.39m、短径0.37mの円形である。深さは20cmで、底面は皿状を呈している。壁はほぼ直立している。

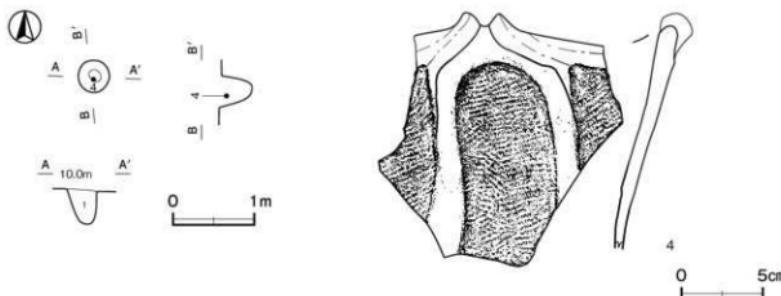
覆土 単一層である。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 シルトブロック少量

遺物出土状況 繩文土器1点（深鉢）が出土している。4は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第6図 第313号土坑・出土遺物実測図

第313号土坑出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	部種	口径	頂高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	-	長石・石英・ 赤玉・赤色粒子	にじいろ	普通	發掘による池口字状文→單面繩文	4	加賀利江式圓 中期末葉 PL 4

第314号土坑（第7図）

位置 調査区中央部のB 5b1区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.45m、短径0.27mの梢円形で、長径方向はN-85°-Wである。深さは22cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

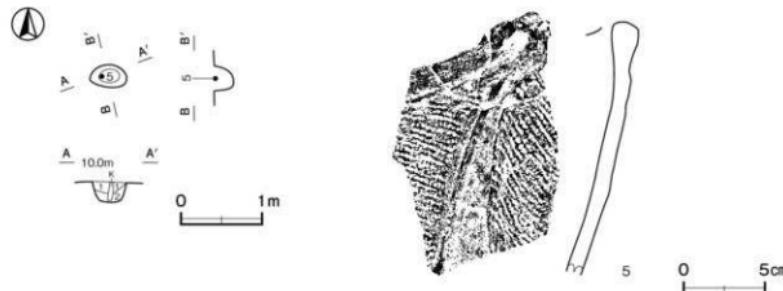
土層解説

1 黒褐色 シルトブロック微量

2 黒褐色 シルト粒子多量

遺物出土状況 縄文土器4点（深鉢）が出土している。5は、覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第7図 第314号土坑・出土遺物実測図

第314号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	(15.6)	-	長石・石英・ 雲母	明赤褐色	普通	發掘による区画→單線縄文LRを光燒→發掘内削消 口縁部陰面による無文帯	覆土上層	加賀E五反地 中期末葉 PL.4

第321号土坑（第8図）

位置 調査区東部のB 5c2区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.94m、短径0.79mの楕円形で、長径方向はN-26°-Eである。深さは48cmで、底面は平坦である。壁は北壁と西壁がほぼ直立しており、他は外傾している。

覆土 単一層である。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 シルトブロック少量

遺物出土状況 縄文土器17点（深鉢）。自然礫1点が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第8図 第321号土坑・出土遺物実測図

第321号土坑出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・ 雲母	灰黃褐色	普通	口縁部陰面による区画→單線縄文LRを光燒→ 底盤内を削消 口縁部陰面による無文帯	覆土中	中期末葉 PL.4
7	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通	複位の条縄文 口縁部無文帯	覆土中	

第322号土坑（第9図）

位置 調査区東部のB4b2区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.47m、短径0.99mの楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。深さは41cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。シルトブロックが含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

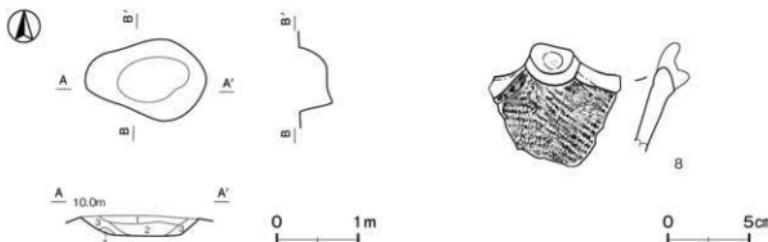
土層解説

1 黒褐色	シルトブロック中量
2 黒褐色	シルトブロック少量

3 黒褐色	シルト粒子中量
4 暗褐色	シルト粒子中量

遺物出土状況 繩文土器44点（深鉢）、剥片1点が出土している。8は、覆土中から出土している。また、出土した破片が、第281号土坑の1・3と接合している。

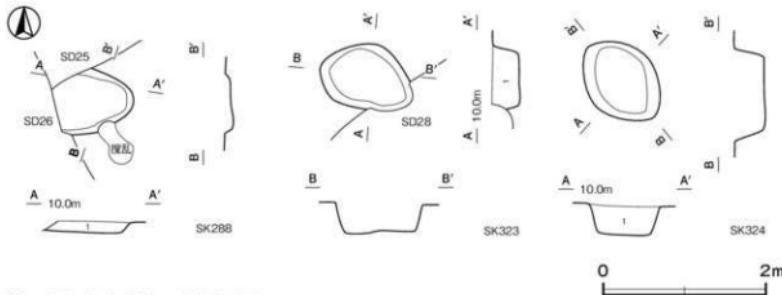
所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第9図 第322号土坑・出土遺物実測図

第322号土坑出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	厚さ	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	参考
8	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・滑石・赤色粒子	に赤い帯	普通	縄文LRを斜め・直線に施文→口縁部底面による区画・底面部に撒布による円弧文を付す	覆土中	中期末葉 PL.4



第10図 縄文時代の土坑実測図

第288号土坑土層解説

1 黒褐色	シルト粒子多量
-------	---------

第324号土坑土層解説

1 黒褐色	(シルト質)
-------	--------

第323号土坑土層解説

1 黒褐色	(シルト質)
-------	--------

表2 繩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	観測面		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
281	B 5 b1	N - 38° - W	楕円形	1.11 × 0.95	24	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1 → 本跡 → SD26
288	B 5 b1	N - 88° - W	[楕円形]	(1.00) × 0.80	10	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1 → 本跡 → SD25・26
313	B 4 b0	-	円形	0.39 × 0.37	20	[注記直立]	底状	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1 → 本跡
314	B 5 b1	N - 85° - W	楕円形	0.45 × 0.27	22	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1 → 本跡
321	B 5 c2	N - 26° - E	楕円形	0.94 × 0.79	48	[注記直立 外傾]	平坦	人為	縄文土器(深鉢)、罐	HG 1 → 本跡
322	B 5 b2	N - 85° - W	楕円形	1.47 × 0.99	41	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)、石器(削片)	HG 1 → 本跡
323	B 5 c3	N - 69° - W	楕円形	1.23 × 0.81	34	傾斜	平坦	自然		HG 1 → 本跡 → SD28
324	B 4 c0	N - 43° - W	楕円形	1.18 × 0.87	38	傾斜	平坦	自然		HG 1 → 本跡

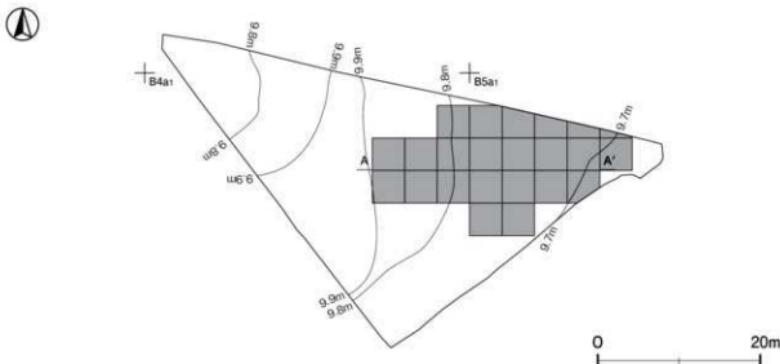
(2) 遺物包含層

第1号遺物包含層（第11～15図 PL 2）

位置 調査区中央部から東部にかけてのB 4 b8～B 5 e5 区。東側に向かって緩やかに傾斜する標高9.9～9.6mほどの低台地緩斜面に位置している。

確認状況 調査区中央部から東部にかけての確認面から、縄文土器が多く出土したために、4 m四方のグリッド毎に掘り下げを行った。遺物は、器形がわかるものや比較的大きな破片、石器について、座標値に記録を行い、それ以外の破片についてはグリッド毎に一括で取り上げた。

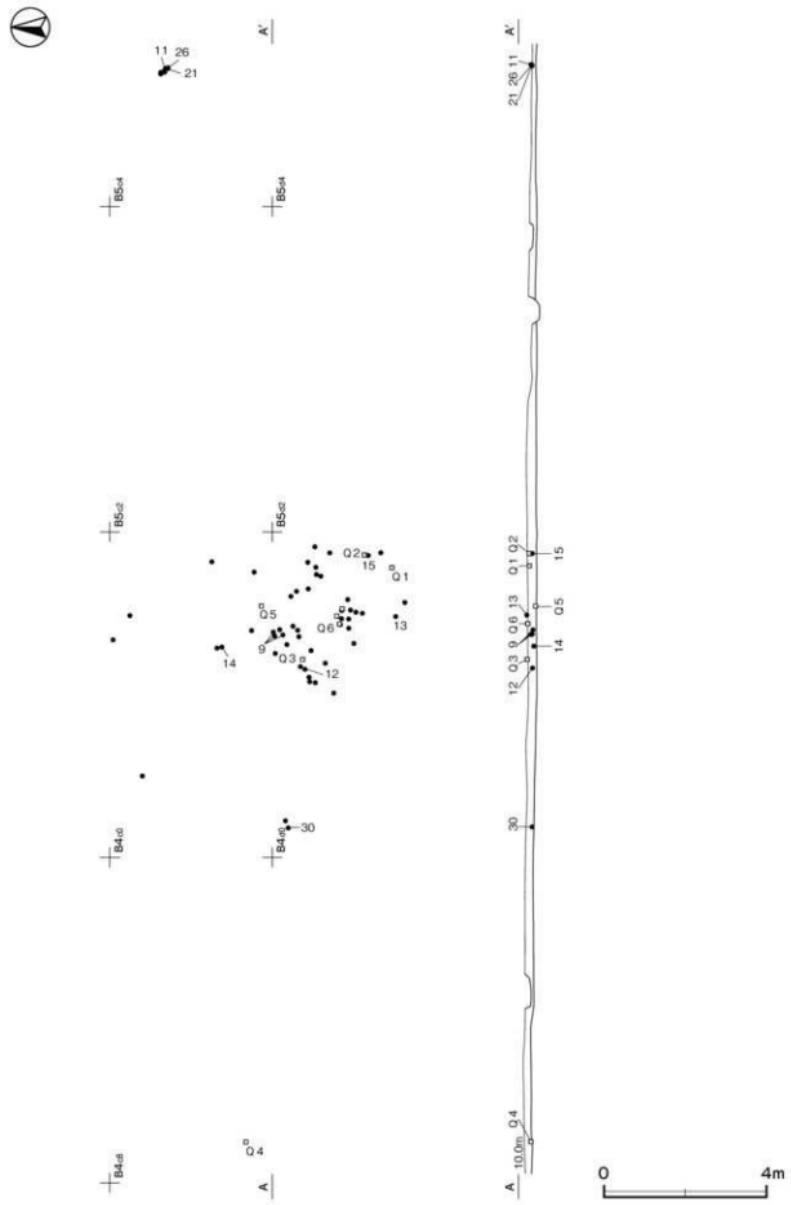
調査範囲 調査を行ったグリッドは、B 4 b0～B 5 b5、B 4 c8～B 5 c5、B 4 d8～B 5 d4、B 5 e1・B 5 e2で、面積は約800m²である。第11図に調査区設定図を掲載する。



第11図 第1号遺物包含層調査区設定図

重複関係 第2・3号掘立柱建物跡、第265・268～270・272・273・276～279・281・283～285・287～290・313～316・318・321～324号土坑、第24～30号溝、第1号柱穴列、第6号ピット群に掘り込まれている。

堆積状況 単一層である。基本層序第5層に対応する。土質はシルト質を示し、分層することができないこ



第 12 図 第 1 号遺物包含層実測図

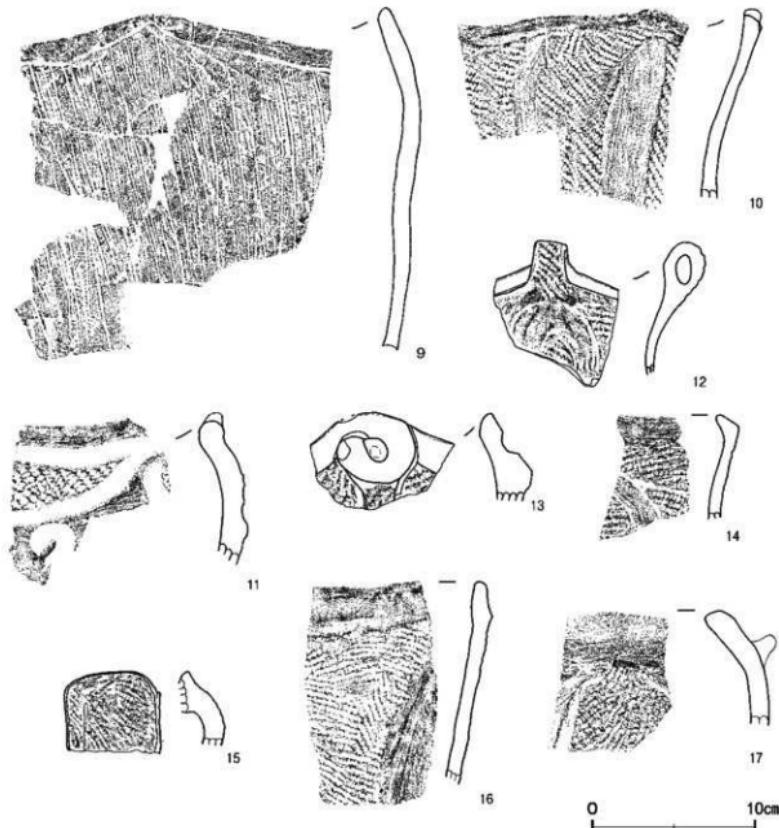
から、短期間に遺物を含んだ土が流れ込んで形成されたと考えられる。

土層解説

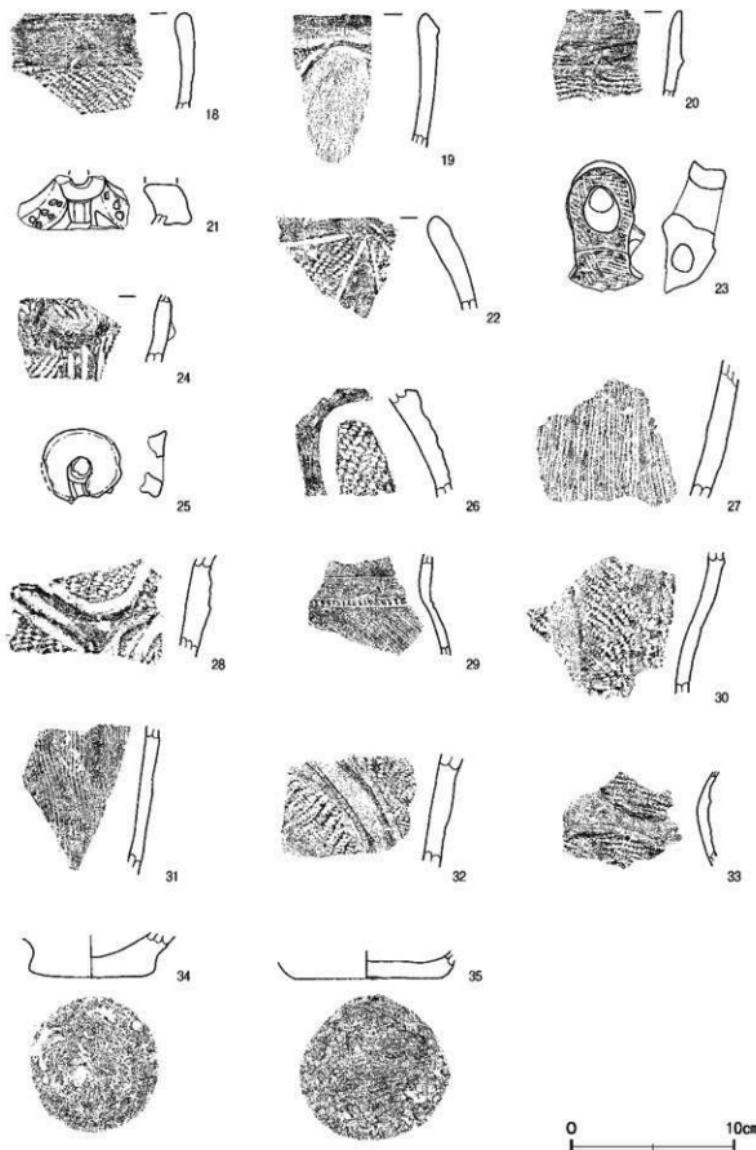
1 噴 暗 色 明褐色シルトブロック中量

遺物出土状況 繩文土器 862 点（深鉢）、土製品 1 点（粘土塊）、石器 12 点（剥片 8、錐 3、磨石 1）、自然礫 5 点が出土している。層位的な出土状況は確認できず、散在して出土しているが、B 4 c0 区～B 5 d1 区に比較的集中して確認された。

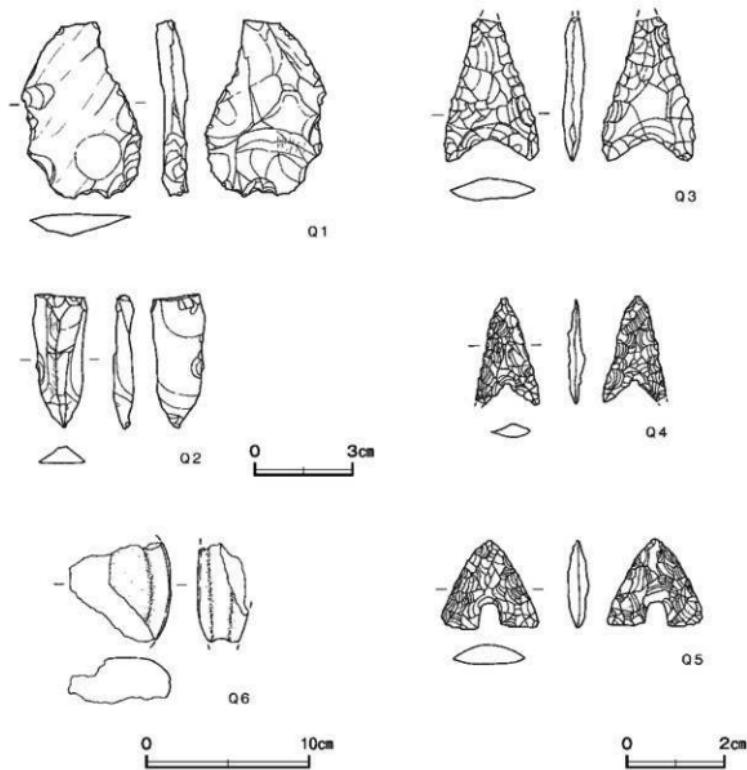
所見 出土土器は、後期に位置付けられる土器が少量出土しているが、多くは中期後半から末葉（加曾利 E III ～IV 式）に比定されることから、主な形成時期は中期末葉とみられる。堆積土はシルト質で、出土遺物の角や文様に摩耗が確認されるものもあることから、周辺の集落の遺物が、西傾斜の斜面に流れ込んで短期間に堆積したとみられる。



第 13 図 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第14図 第1号遺物包含層出土遺物実測図（2）



第15図 第1号遺物包含層出土遺物実測図（3）

第1号遺物包含層出土遺物観察表（第13～15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	船土	色調	使成	手の眷帶はか	出土位置	備考
9	純文土器	深鉢	-	(21.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通 圓錐による区画	斜傾の基面文→偏位の系垂文 口縁部横位の浅 溝による区画	B 5 d1	PL 5
10	純文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通 圓錐彫文LR→噴消による懸垂文 口縁部陰線	B 5 b1	PL 5	
11	純文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・ 鈍角・赤色粒子 青母	棕	普通 圓錐による区画	大い沈窓による区画→複疊彫文RLを先端→ 圓錐内を斜傾の上縁部幾文	B 4 d0	加賀利E II式葉 PL 5
12	純文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・ 青母	にぶい橙	普通 圓錐による区画	大い沈窓による区画→複疊彫文LRを先端→ 把手部分付	B 5 d1	中間木葉 PL 5
13	純文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通 圓錐彫文LR→高巻状の突起縁沿	口縁部陰線	B 5 e1	中間木葉 PL 5
14	純文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・ 青母	棕	普通 沈窓による区画	沈窓による区画→単縦LRを先端→ 沈窓内を	B 5 d1	中間木葉 PL 5
15	純文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・ 青母	にぶい橙	普通 圓錐彫文RL	把手部 単縦彫文 RL 斜傾き	B 5 b1	
16	純文土器	深鉢	-	(12.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通 圓錐彫文RLによる区画文→複疊彫文RL、舟形→斜垂 圓錐文	口縁部陰線による区画文	B 5 e1	中間木葉 PL 5
17	純文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・ 青母	明赤褐	普通 圓錐の單縦彫文RL	斜傾の单縦彫文RL→隆唇による区画文	B 5 e1	中間木葉 PL 5
18	純文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・ 青母	にぶい橙	普通 圓錐彫文RL	口縁部陰線による区画文	B 5 d1	PL 5
19	純文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・ 青母	にぶい橙	普通 圓錐による区画文→複疊彫文RL→懸垂文内 凹凸	口縁部陰線による区画文	B 4 d0	中間木葉

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	陶文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	単脚彫文LR 口縁部斜面による無文帯	B 5 d1	
21	陶文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	内底の突起側付 隆帯による無文帯 中央に輪型の凹痕 口縁部斜面による区画文 隆帯に2段による区画文	B 5 c4	佐野寺式周後期初期
22	陶文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	内底の突起側付 隆帯による無文帯 中央に輪型の凹痕 口縁部斜面による区画文 隆帯に2段による区画文	B 5 e2	中朝末期 PL. 5
23	陶文土器	把手	-	(8.2)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	内底の突起側付 隆帯による無文帯 中央に輪型の凹痕 口縁部斜面による区画文 背面ナデ	B 5 b2	PL. 5
24	陶文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	内底の輪型凹痕文→窓位の輪型凹痕文→口縁部斜面による区画文	B 5 e2	中期後半
25	陶文土器	把手	-	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	把手部 異状の突起 文面剥離痕	B 5 d1	中朝末期
26	陶文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	内底の輪型の凹痕文→窓位の單脚彫文LRを光背する	B 5 c4	中朝末期
27	陶文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	側面斜工具による柔織文	B 5 c4	
28	陶文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	に赤い模	普通	彫刻彫文LRL→火痕を伴う隆帯によるY字状文→U字状文内削消	B 4 c8	中期末期
29	陶文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	内底の輪型凹痕文→窓位の輪型凹痕による区画文→火痕内削消の変遷	B 4 d8	加賀井B-普谷尾原 PL. 5
30	陶文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	彫刻彫文LRL→火痕を伴う隆帯による区画文	B 4 d0	中朝末期 PL. 5
31	陶文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英	灰褐	普通	側面斜工具による柔軟な柔織文	B 5 d1	
32	陶文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	内底の輪型凹痕文→火痕を伴う隆帯による強烈な火痕文	B 5 d3	加賀井E-火痕文
33	陶文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英	褐	普通	彫刻彫文LR→窓位に隆帯による区画文→火痕内削消	B 5 e1	中朝末期後期初期 PL. 5
34	陶文土器	深鉢	-	(2.8)	7.7	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	底部外面へ張り 指頭圧痕1か所 ナデ調整	B 5 b1	
35	陶文土器	深鉢	-	(1.6)	9.1	長石・石英・赤色粒子	に赤い模	普通	底部外面へ張り	B 5 c1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	スケレーラー	54	3.8	0.9	14.89	チャート	片面彫文部加工	B 5 d1	PL. 6
Q 2	刮片	41	1.7	0.6	423	チャート	打面は單脚彫文 裏面に同一方向からの剥離痕	B 5 d1	
Q 3	器	(30)	19	0.5	(1.98)	チャート	円基無茎縫 背面押付剥離 先端部破損	B 5 d1	PL. 6
Q 4	器	22	13	0.4	0.64	チャート	円基無茎縫 背面押付剥離	B 4 c8	PL. 6
Q 5	器	18	20	0.4	1.10	チャート	円基無茎縫 背面押付剥離	B 5 c1	PL. 6
Q 6	磨石	(6.1)	(6.2)	(3.3)	(16.09)	安山岩	側面使用痕	B 5 d1	

2 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、火葬施設1基、土坑30基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

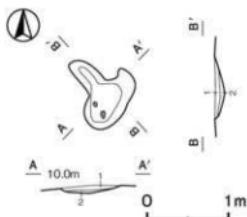
(1) 火葬施設

『当財团調査報告』第352集では、火葬土坑として4基が報告されているが、今回の報告では、火葬施設と名称を変更する。

第5号火葬施設（第16図）

位置 調査区中央部のB 4e0区、標高9.8 mほどの低台地緩斜面に位置している。

規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向はN-45°-Wである。通風溝は、長さ0.89 m、上幅0.26 m、下幅0.08 mである。確認面からの深さは41cmで、底面は皿状を呈し、燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は横幅0.79 m、奥行0.47 mの不整長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは10cmで、底面は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。燃焼部の南西部から炭化材と骨片が確認できた。



第16図 第5号火葬施設実測図

覆土 2層に分層である。いずれも炭化粒子や骨粉が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 炭化粒子中量、シルトブロック・骨粉少量 2 黒 暗色 炭化粒子・シルト粒子中量、骨粉少量

遺物出土状況 燃焼部から炭化材、骨片及び骨粉が出土している。

所見 炭化粒子、骨片及び骨粉が出土していることや、T字状の形態、及び調査区内に同時期の墓坑と見られる土坑が存在することから、葬送にかかる火葬施設と考えられる。遺骸を火葬し、収骨したのちに埋め戻されている。時期は、周辺の遺構との関連から中世と考えられる。

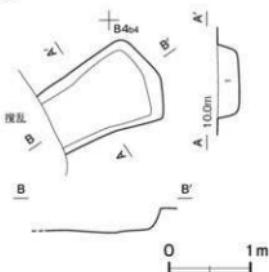
(2) 土坑

今回の調査で、出土遺物、形状、重複関係から、中世と見られる土坑30基を確認した。以下、遺構の形状や遺物が特徴的な3基について本文と実測図で解説する。その他の土坑については、実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

第245号土坑（第17図）

位置 調査区東部のB4b3区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

Ⓐ



第17図 第245号土坑実測図

規模と形状 西部が擾乱により壊されているため、長軸方向は1.46mしか確認できなかった。短軸方向は0.90mで、平面形は長方形と推定される。長軸方向はN-55°-Eである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 単一層である。シルトブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 シルトブロック中量

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）のほか、縄文土器2点（深鉢）が出土している。土師質土器は細片のため、図示できなかった。

所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から中世と考えられる。

第279号土坑（第18図）

位置 調査区西部のB4c0区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.88m、短軸0.82mの長方形で、長軸方向はN-51°-Eである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

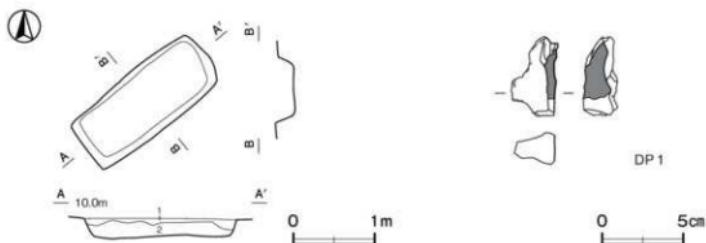
覆土 2層に分層できる。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 シルトブロック少量 2 黒 暗色 シルトブロック中量

遺物出土状況 土製品1点（羽口）のほかに、縄文土器7点（深鉢）が出土している。

所見 形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。時期は、周囲の遺構との関係から中世と考えられる。



第18図 第279号土坑・出土遺物実測図

第279号土坑出土遺物観察表（第18図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	羽口	(28)	(4.9)	(1.8)	(1574)	粘土・スサ	に赤い模様	先端部灰赤色に変色、火熱によって溶けしており、青灰色の表面材が付着	覆土中	

第283号土坑（第19図）

位置 調査区西部のB 4 d9 区、標高 9.8 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第6号ピット群のP 98・P 99に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 153 m、短軸 0.59 m の長方形で、長軸方向は N - 67° - E である。深さは 30cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

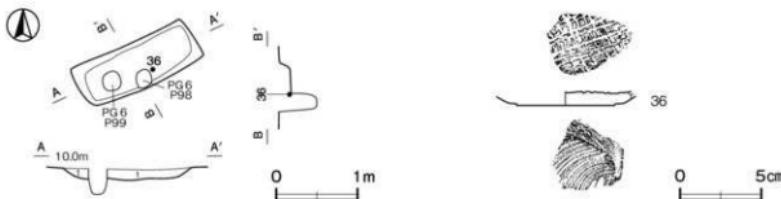
覆土 単一層である。シルトブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

遺物出土状況 陶器 1 点（鉢皿）のほか、縄文土器 3 点（深鉢）が出土している。36 は、底面から出土している。

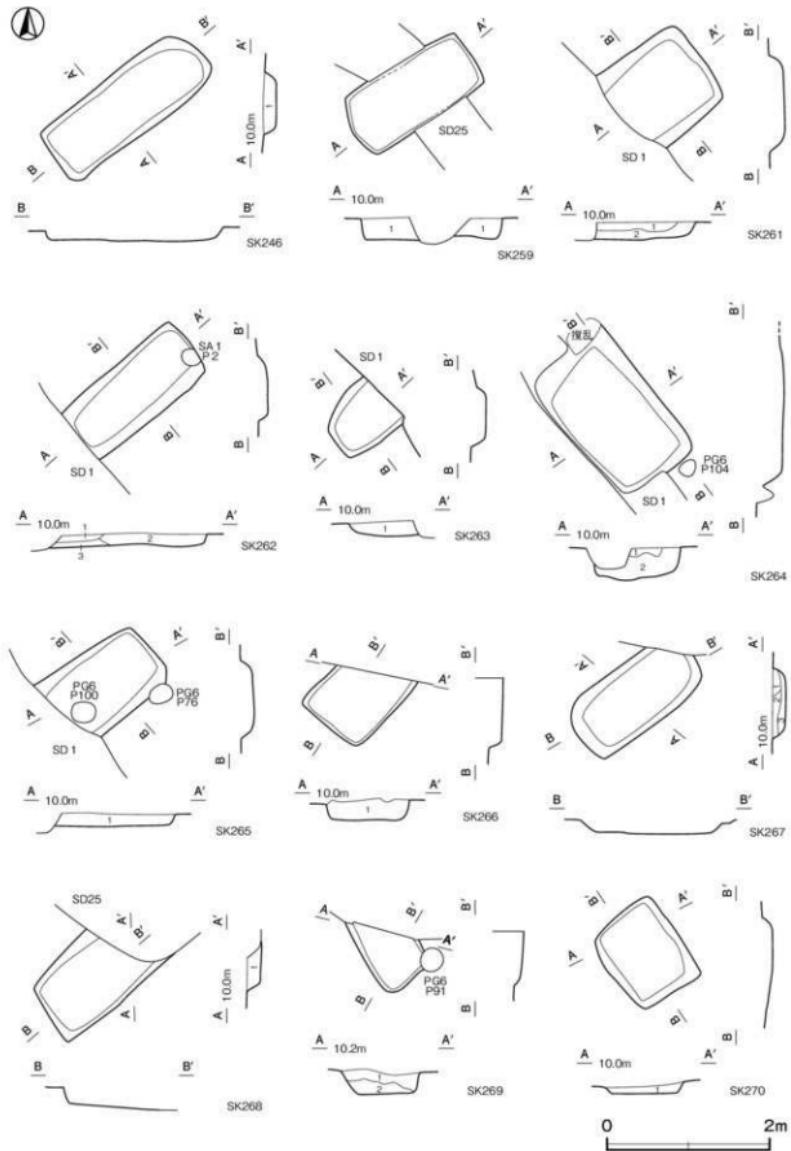
所見 形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から中世と考えられる。



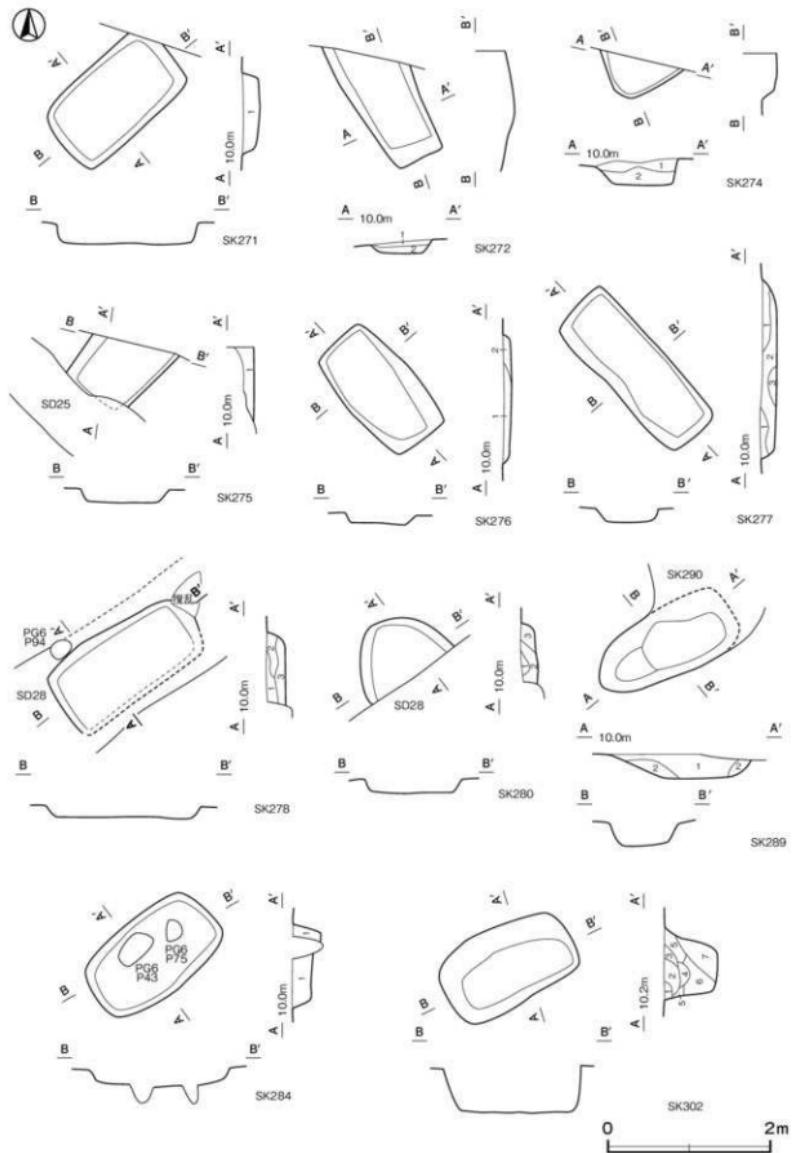
第19図 第283号土坑・出土遺物実測図

第283号土坑出土遺物観察表（第19図）

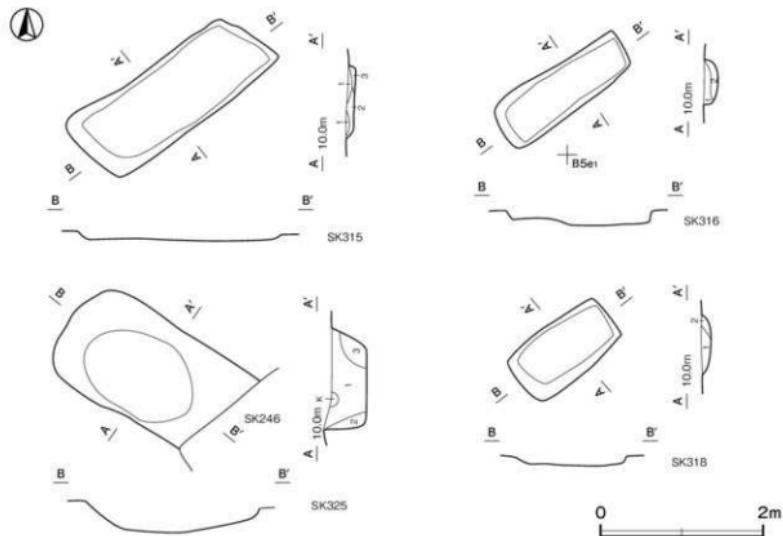
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
36	陶器	鉢皿	-	(0.8)	(6.0)	長石・石英 に赤い模様	内面施釉 鉢口施灰（鐵→鐵）底 部回転糸切り	灰釉	瀬戸	床面	大塗付後削第 五層 PL 6



第20図 中世の土坑実測図（1）



第21図 中世の土坑実測図（2）



第22図 中世の土坑実測図（3）

第246号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック少量

第259号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック中量

第261号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック中量

第262号土坑土層解説

1 黒 棕色 シルトブロック中量

2 黒 棕色 シルトブロック少量

第263号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック少量

第264号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック少量

2 黒 色 シルトブロック中量

第265号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック少量

第266号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック中量

第267号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック少量

2 黑 棕色 シルトブロック中量

3 黑 色 シルトブロック中量

第268号土坑土層解説

1 黒 色 シルトブロック中量

第269号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック中量

2 黑 棕色 シルトブロック少量

第270号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック中量

第271号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック中量

第272号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック少量

2 黑 棕色 シルトブロック多量

第274号土坑土層解説

1 黑 棕色 シルトブロック少量

2 黑 色 シルトブロック多量

第275号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック中量

第276号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック少量

2 黑 色 シルトブロック中量

第277号土坑土層解説

1 黑 色 シルトブロック少量

2 黑 色 シルトブロック中量

3 黑 色 シルトブロック微量

第278号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
2 黒褐色 シルトブロック中量
3 黒褐色 シルトブロック少量

第280号土坑土層解説

- 1 暗褐色 底褐色粘土ブロック少量
2 黒褐色 シルトブロック中量
3 黒褐色 シルトブロック少量

第284号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第289号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
2 灰褐色 シルトブロック中量

第302号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子中量
2 黒褐色 シルト粒子微量
3 黒褐色 シルト粒子少量
4 黑褐色 シルトブロック少量
5 黑褐色 シルトブロック多量
6 黑褐色 シルトブロック中量
7 暗褐色 シルトブロック中量

第315号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子微量
2 黑褐色 シルト粒子微量
3 暗褐色 シルト粒子中量

第316号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック中量
2 黑褐色 シルトブロック多量

第318号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック中量
2 黑褐色 シルトブロック多量

第325号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量
2 暗褐色 シルトブロック中量
3 黑褐色 シルトブロック少量

表4 中世土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
245	B 4b3	N - 55° - E	【長方形】	(1.46) × 0.90	23	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝), 土師質土器(小皿)	
246	B 4b5	N - 49° - E	長方形	2.20 × 0.80	14	外傾	平坦	人為		SK325 → 本跡
259	B 4a8	N - 59° - E	長方形	1.55 × 0.84	35	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	本跡 → SD25
361	B 4a6	N - 52° - E	【長方形】	(1.25) × 1.20	19	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝), 鉛石	本跡 → SD 1
362	B 4b6	N - 49° - E	【長方形】	(1.87) × 0.80	14	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	本跡 → SD 1 SA 1との新旧不明
363	B 4c7	N - 49° - E	【長方形】	(0.81) × 0.75	17	外傾	平坦	人為		本跡 → SD 1
364	B 4c7	N - 38° - W	【長方形】	1.77 × [1.09]	40	外傾	平坦	人為		本跡 → SD 1
365	B 4d5	N - 52° - E	【長方形】	(1.50) × 0.94	17	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	本跡 → SD 1 · PG 6
366	B 4a9	N - 44° - E	【長方形】	(1.10) × 0.90	19	外傾	平坦	人為		
367	B 4a9	N - 52° - E	【長方形】	1.72 × 0.83	15	縱斜	平坦	人為		
368	B 4c0	N - 47° - E	【長方形】	(1.72) × 0.95	28	外傾	平坦	人為		HG 1 → 本跡 → SD28
369	B 5b2	N - 30° - W	【長方形】	(0.93) × 0.70	12	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡 → PG 6
270	B 5b3	N - 31° - W	長方形	1.15 × 0.96	10	外傾	平坦	人為		HG 1 → 本跡
271	B 4a6	N - 49° - E	長方形	1.58 × 0.98	26	ほぼ直立	平坦	人為		
272	B 5b3	N - 27° - W	【長方形】	(1.61) × 0.86	14	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡
274	B 3.5	N - 70° - E	【長方形】	(0.78) × (0.54)	32	外傾	平坦	人為		
275	B 4a8	N - 40° - E	【長方形】	(1.05) × 0.94	16	外傾	平坦	人為		本跡 → SD25
276	B 5e1	N - 43° - W	長方形	1.61 × 0.90	11	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡
277	B 5e1	N - 40° - W	長方形	2.18 × 0.81	17	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡
278	B 5c3	N - 50° - E	【長方形】	1.96 × (0.88)	15	縱斜	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡 → SD28
279	B 4c0	N - 51° - E	長方形	1.88 × 0.82	23	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝), 土製品(引口)	HG 1 → 本跡
280	B 4g8	N - 56° - E	【楕円形】	1.23 × (0.80)	17	外傾	平坦	人為		本跡 → SD28
283	B 4d9	N - 67° - E	長方形	1.53 × 0.59	30	縱斜	平坦	人為	縄文土器(深溝), 陶器(瓶)	HG 1 → 本跡 → PG 6
284	B 4d8	N - 56° - E	【楕円形】	[1.90] × 0.82	28	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡 → PG 6
289	B 4d0	N - 63° - E	【楕円形】	[1.90] × 0.82	28	外傾	平坦	人為	縄文土器(深溝)	HG 1 → 本跡 → SK290
302	B 4b9	N - 63° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.99	55	ほぼ直立	外傾	人為	縄文土器(深溝), 石器(調片)	

番号	位置	長辺方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
315	B 5 d3	N - 53° - E	長方形	2.50 × 0.57	10	板斜	平坦	人為	縄文土器（深鉢）	HG 1 → 本跡
316	B 4 d0	N - 52° - E	長方形	1.82 × 0.57	16	外傾	平坦	人為	縄文土器（深鉢）、土師質土器（甕）	HG 1 → 本跡
318	B 5 d1	N - 55° - E	長方形	1.38 × 0.74	8	外傾	平坦	人為	縄文土器（深鉢）	HG 1 → 本跡
325	B 4 b4	N - 59° - W [礎丸長方形]	(2.35) × 1.35	34	板斜	風状	人為	縄文土器（深鉢）		本跡 → SK246

3 近世の遺構と遺物

当時期の遺構は、土坑1基、溝跡4条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

第260号土坑（第23図）

位置 調査区西部のB 35区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸158m、短軸0.77mの長方形で、長軸方向はN - 68° - Eである。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

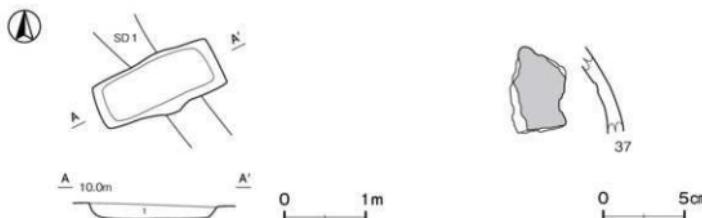
覆土 単一層である。シルトブロックを多く含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

1 埋 地 色 シルトブロック多量

遺物出土状況 陶器1点（瓶カ）が、覆土中から出土している。

所見 形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。時期は、近世とみられる第1号溝跡を壊しており、それ以降と考えられる。



第23図 第260号土坑・出土遺物実測図

第260号土坑出土遺物観察表（第23図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底様	胎土・色調	文 種 の 特 徴	輪 柄	座 地	出 土 位 置	備 考
37	陶器	瓶カ	-	(5.3)	-	長石・鐵磁 にい黄褐	外面施釉 内面削りによる調整	弦紋	圓戸・夷造系	覆土中	

(2) 溝跡

当時期の溝跡は、4条確認した。平面図は全体図（付図）に示す。

第1号溝跡（第27図）

調査年度 平成27年度 南東部は平成21年度に調査し、「当財団調査報告書」第352集で第1号溝跡として報告している。

位置 調査区西部から中央部にかけてのA 4j4区～B 4g0区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第261～265号土坑、第1号遺物包含層を掘り込み、第260号土坑、第28号溝に掘り込まれている。第6号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と形状 北西部が調査区域外へ延び、南東部で平成21年度調査分に接続する。今回確認した長さは37.42mであった。A 4j5区から南東方向（N - 41° - W）へ直線的に延びて、B 4g0区で平成21年度調査分に接続する。規模は、上幅0.40～0.90m、下幅0.18～0.34mで、確認面からの深さは7～34cmである。断面はU字状で、壁は外傾している。底面は、北西から南東方向に傾斜している。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 シルト粒子少量 | 4 黒褐色 シルトブロック少量 |
| 2 黒褐色 シルト粒子中量 | 5 黒褐色 シルト粒子中量（シルト質） |
| 3 黒褐色 シルト粒子少量（シルト質） | |

遺物出土状況 瓦質土器3点（焰）、陶器1点（皿）のほかに、縄文土器12点（深鉢）が出土している。

所見 直線的に伸びることから、地割のための溝と考えられる。時期は、周囲の遺構との新旧関係や出土土器から近世と考えられる。

第25号溝跡（第24・27図）

位置 調査区中央部から東部にかけてのB 4a7区～B 5b1区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

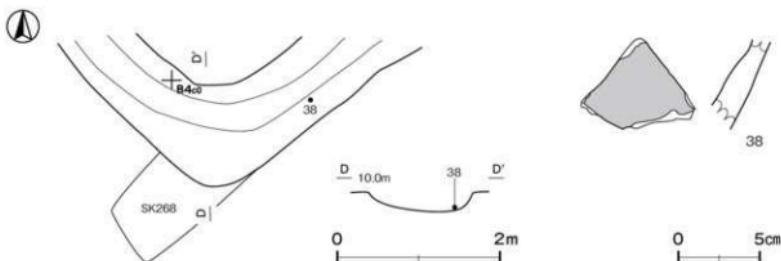
重複関係 第1号遺物包含層、第259・268・275・288号土坑を掘り込み、第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B 4a7区の調査区域外から南東方向（N - 47° - W）へ直線的に延び、B 4c0区で北東方向（N - 52° - E）にL字状に屈曲してB 5b1で調査区域外に延びている。そのため、長さは19.52mしか確認できなかった。規模は、上幅0.66～1.00m、下幅0.20～0.40mで、確認面からの深さは12～24cmである。断面はU字状で、壁は外傾している。底面は北西から北東方向に傾斜している。

覆土 3層に分層できる。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 シルトブロック少量 | 3 黒褐色 シルト粒子少量 |
| 2 黒褐色 シルトブロック微量 | |



第24図 第25号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器 1 点（甕）のほか、縄文土器 22 点（深鉢）、軽石 1 点が出土している。38 は、B 4 c0 区の底面から出土している。

所見 L 字状に屈曲することから、地剤のための溝と考えられる。時期は、出土土器から近世と考えられる。

第 25 号溝跡出土遺物観察表（第 24 図）

番号	種 別	器種	口径	基高	底径	胎土・色調	文 様 の 特 徴	軸 葉	産 地	出土位置	備 考
38	陶器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英 に多い赤鉄	両面施釉 内面ロクロナマ	錯結	瀬戸・美濃	B 4 c0 区 底面	

第 26 号溝跡（第 27 図）

位置 調査区中央部から東部かけての B 4 a0 区～B 5 c2 区、標高 9.7 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 281・288 号土坑、第 25 号溝跡、第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 B 4 a0 区の調査区域外から南東方向 (N - 40° - W) へ小刻みに蛇行しながら伸び、B 5 c2 区で立ち上がっているため、長さは 11.30 m しか確認できなかった。規模は、上幅 0.26 ～ 0.80 m、下幅 0.12 ～ 0.44 m で、確認面からの深さは 10 ～ 20 cm である。断面は U 字状で、壁は外傾している。底面は、南東から北西方向に傾斜している。

覆土 単一層である。覆土は締まりが弱く、一度に埋め戻されたと見られる。

土層解説

1 黒褐色 シルト粒子微量（シルト質）

遺物出土状況 縄文土器 62 点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため詳細は不明であるが、近世と見られる第 25 号溝跡を掘り込んでおり、近世と考えられる。性格は地剤を目的としたと見られる。

第 28 号溝跡（第 25 ～ 27 図 PL 2・3）

位置 調査区西部から東部かけての B 4 h7 区～B 5 b4 区、標高 9.7 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 278・280・323 号土坑、第 1 号遺物包含層を掘り込み、第 1 号溝、第 6 号ピット群 P94 に掘り込まれている。

規模と形状 南西部と北東部が調査区域外へ延びているため、長さは 35.62 m しか確認できなかった。また、北東部は掘り込みが浅く、確認面では捉えられなかった。B 4 h7 区から北東方向 (N - 52° - E) へ直線的に延びている。上幅 1.30 ～ 2.00 m、深さは 3 ～ 15 cm の逆台形状の溝がまず掘り込まれ、さらに底面の両側の壁際に U 字状の溝が掘り込まれている。北側の溝は、B 4 h7 から B 5 c3 区まで確認できた。上幅 0.20 ～ 0.76 m、下幅 0.08 ～ 0.30 m、深さは 10 ～ 21 cm である。南側の溝は、上幅 0.36 ～ 0.58 m、下幅 0.10 ～ 0.24 m、深さは 29 ～ 41 cm である。壁は外傾し、底面は南西から北東方向に傾斜している。

覆土 7 層に分層できる。不規則な堆積状況を示しており、埋め戻されたとみられる。

土層解説

1 喜 褐 色 シルト粒子中量

5 黒 色 シルト粒子少量

2 黒 褐 色 シルト粒子中量

6 黒 色 シルト粒子中量

3 灰 褐 色 シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

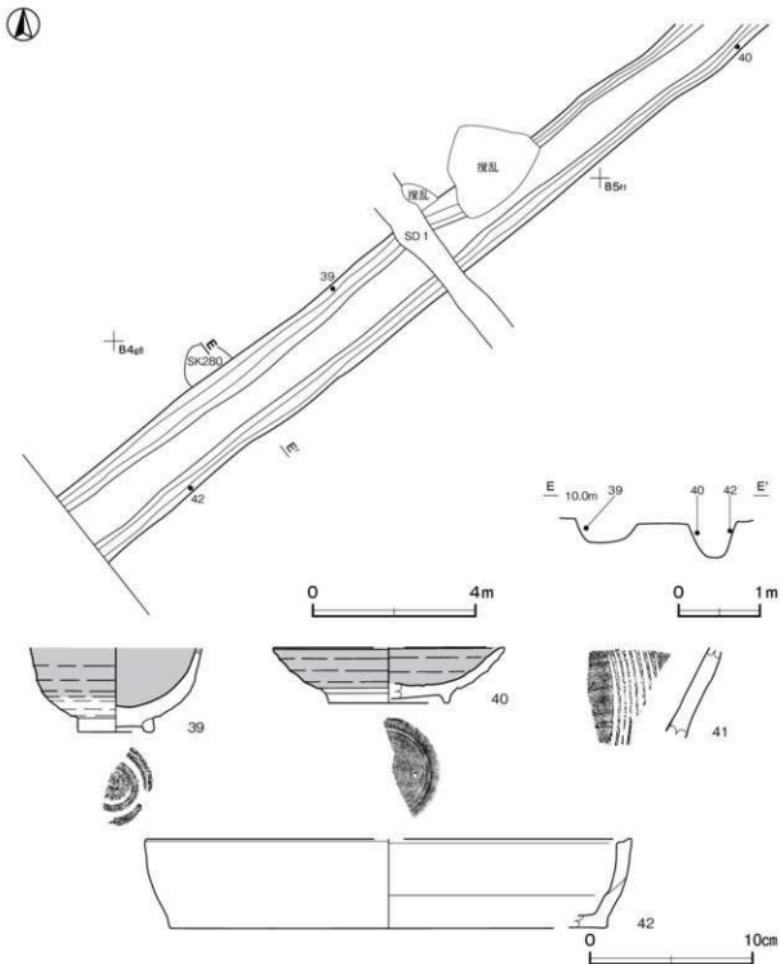
7 黒 褐 色 シルト粒子少量

4 黒 褐 色 シルトブロック少量

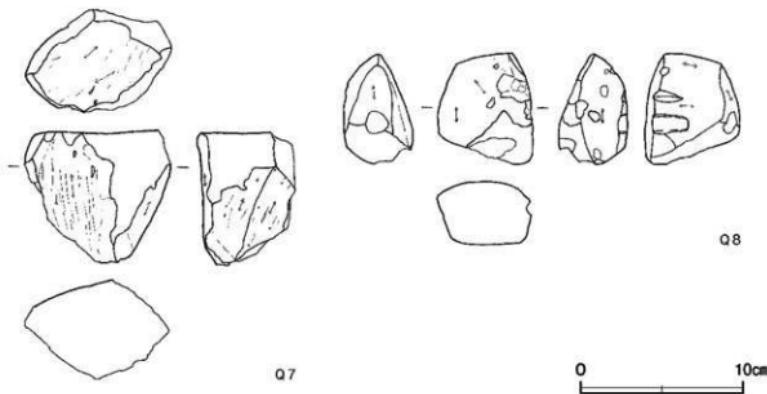
遺物出土状況 瓦質土器 1 点（培培）、陶器 11 点（天目茶碗 2、皿 1、擂鉢 2、不明 6）、石器 2 点（砥石）、

のほかに、縄文土器 98 点（深鉢）、須恵器 1 点（甕）、土製品 1 点（円筒埴輪）、石器・石製品 10 点（板碑片カ 3、石核 7）、軽石 2 点、鐵滓 1 点が出土している。

所見 断面形状からは 3 条の溝が重複しているように見えるが、覆土の堆積状況から 1 条の溝と判断した。両側の溝に囲まれた中央部には、硬化面や柱穴列、道路などの構造物は確認されなかった。調査前の地割と同一であることから地割を目的としたと考えられる。時期は、出土土器から近世に埋設したとみられる。



第 25 図 第 28 号溝跡・出土遺物実測図

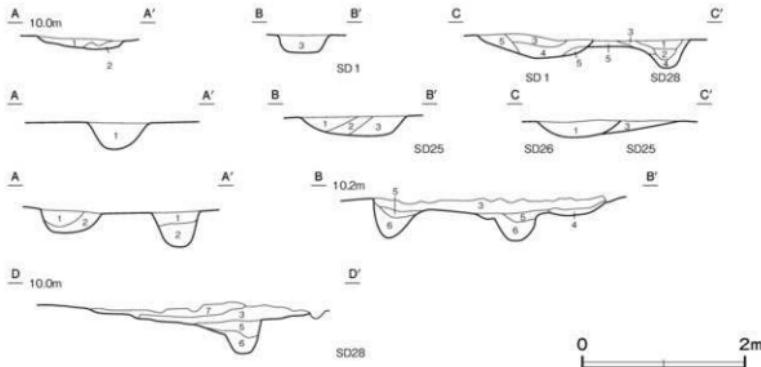


第26図 第28号溝跡出土遺物実測図

第28号溝跡出土遺物観察表（第25・26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
39	陶器	天目茶碗	-	(5.1)	[4.6]	灰岩・石英・砂粒・ 灰岩粒子・淡黄褐色 刷毛目	内面施釉 高台部露胎 灰白 外・内面施釉 抹輪後高台削り出し 内面重ね焼き痕	鉄薬	瀬戸	E 419区 北側斜面付近上層	PL 6
40	陶器	瓶	[14.2]	3.4	[7.4]	灰岩・鐵器 灰岩・鐵器	内面施釉 抹輪後高台削り出し 内面重ね焼き痕	灰薬	瀬戸	E 5-d1区 南側斜面土上層	PL 6
41	陶器	罐体	-	(5.2)	-	灰岩・石英・雲母 灰岩	内面施釉 内面8本一單位の捲口 内面施釉	鉄薬	瀬戸・美濃	南側斜面土中層	PL 6
42	瓦質土器	焰塔	[29.8]	5.5	[26.8]	灰岩・石英・雲母 灰岩	クロロ成型 筋・内面削り 外面下半 -底面焼による変色・青緑	-	不明	B 4-g8区 南側斜面土中層	PL 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	砾石	(8.2)	(9.1)	(6.1)	(306.15)	角閃石ダイヤカット	紙面5面	覆土中	
Q 8	砾石	(6.8)	5.9	4.3	(32.88)	輝石岩	紙面5面 研ぎ痕2条 破断面1面	覆土中	



第27図 第1・25・26・28号溝跡実測図

表5 近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模				断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	A 441 - B 440	N - 41° - W	直線	(37.42)	0.40 - 0.90	0.18 - 0.34	7 - 34	U字状	外傾	人為	礎文土器(漆鉢)、陶器(粗)、瓦質土器(焼物)	SK261 - 265、HG 1 - 2、SK266、SD28
25	B 447 - B 449 B 440 - B 541	N - 47° - W N - 52° - E	L字状	(19.52)	0.66 - 1.00	0.20 - 0.40	12 - 24	U字状	外傾	人為 (焼)、輕石	礎文土器(漆鉢)、陶器(粗)、瓦質土器(燒物)	SK259 - 268、SD275 - 288 → 本部 → SD26
26	B 440 - B 542	N - 40° - W	直線	(11.30)	0.26 - 0.80	0.12 - 0.44	10 - 30	U字状	緩斜	人為	礎文土器(漆鉢)	SK281 - 288、SD25、HG 1 - 6井
28	B 447 - B 541	N - 52° - E	直線	(35.62)	-	-	-	邊台形	外傾	人為	礎文土器(漆鉢)、陶器(粗)、瓦質土器(燒物)、石器(砾石)	SK278 - 280 - 323、HG 1 - SD 1、PG 6

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかではない掘立柱建物跡3棟、井戸跡1基、柱穴跡4条について、本文と実測図を記載する。その他、時期が明らかでない、土坑37基、溝跡3条、ピット群1か所については実測図と一覧表にて掲載する。また、表土や遺構に伴わない遺物については、実測図と観察表を掲載する。

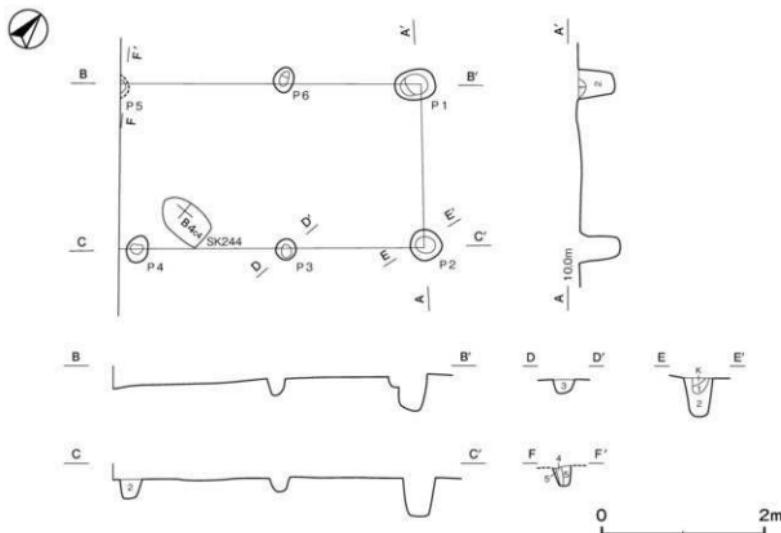
(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第28図）

位置 調査区西部のB 441区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第24号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、梁行1間で、桁行は2間しか確認できなかった。側柱建物跡で、桁行方向がN - 50° - Eの東西棟である。規模は桁行3.7m以上、梁行2.0mである。柱間寸法は、北



第28図 第1号掘立柱建物跡実測図

桁行が東妻から 1.7 m (5.6 尺), 2.0 m (6.6 尺), 南桁行が東妻から 1.7 m (5.6 尺), 1.8 m (6 尺), 桁行 20 m (6.6 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。P 5 を除いた平面形は、円形もしくは梢円形で、長径 26 ~ 49cm、短径 25 ~ 40cm である。深さは 18 ~ 50cm である。第 1 ~ 3 層は柱抜き取り後の堆積層で、第 4 層が柱痕跡、第 5 層が埋土である。

土層解説

1 黒	色 明褐色粘土ブロック少量
2 黒	色 シルトブロック少量
3 黒	色 シルトブロック中量

4 黒	色 明褐色粘土ブロック微量
5 黒	色 明褐色粘土ブロック中量

所見 時期は、周囲の遺構との関係から中世以降と考えられるが、遺物が出土していないため特定は困難である。性格は、小屋などの簡易的な建物と考えられる。

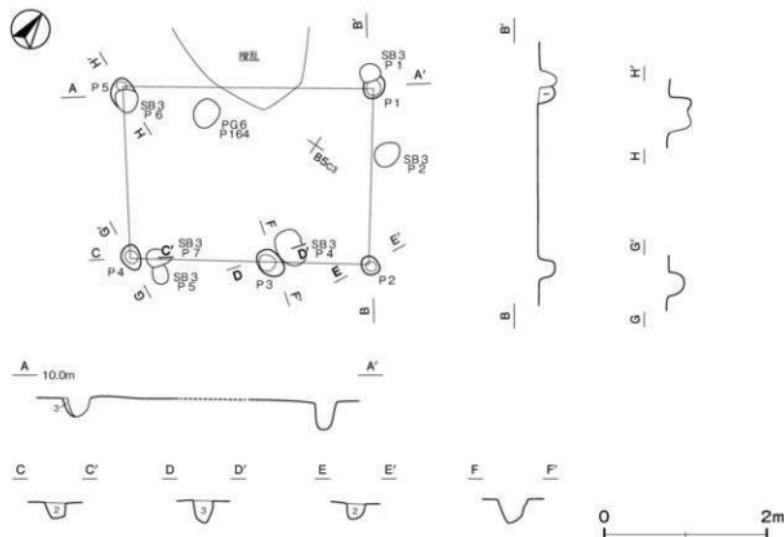
第2号掘立柱建物跡（第29図）

位置 調査区東部の B 5 b3 区、標高 9.8 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込み、第 3 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 6 号ピット群 P164 との新旧関係は不明である。

規模と形状 桁行 2 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 53° - E の東西棟である。規模は桁行 3.1 m、梁行 2.2 m で、面積は 7.22m² である。柱間寸法は、南桁行が東妻から 1.2 m (4 尺), 1.7 m (5.6 尺)、東梁行が北平から 2.2 m (7.3 尺)、西梁行が 2.1 m (7 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。P 1 ・ P 5 の間の柱穴は搅乱により、確認できなかった。

柱穴 5 か所。平面形は梢円形で、長径 24 ~ 42cm、短径 20 ~ 30cm である。深さは 19 ~ 30cm である。第 1



第29図 第2号掘立柱建物跡実測図

～3層は、柱抜き取り後の堆積層である。

土壤解說

- 1 黒 色 シルトブロック微量
2 黒 色 シルトブロック中量

- ### 3 黒褐色 シルトブロック中量

所見 時期は、周囲の遺構との関係から中世以降と考えられるが、遺物が出土していないため特定は困難である。性格は、小屋などの簡易的な建物と考えられるが、不明である。

第3号掘立柱建物跡（第30図）

位置 調査区東部のB 5b3区、標高9.8 mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層、第2号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第6号ピット群P 87・P 164と重複しているが、新旧関係は不明である。

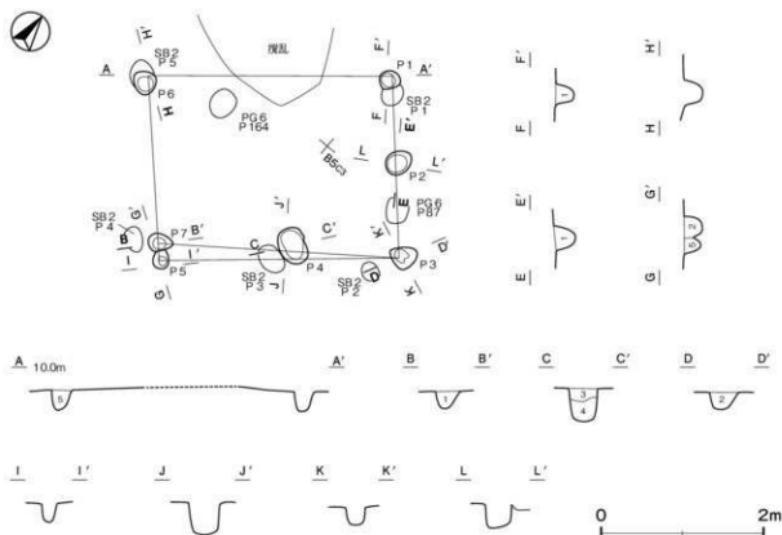
規模と形状 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-50°-Eの東西棟である。規模は桁行3.0m、梁行2.3mで、面積は6.90m²である。柱間寸法は南桁行が東妻から1.3m(4.3尺)、1.6m(5.3尺)、東梁行は1.1m(3.6尺)等間で、柱筋はほぼ描っている。P1-P6の間の柱穴は推乱のために、P5-P6の間は精査したが、柱穴を確認できなかった。

柱穴 7か所。柱穴の平面形は楕円形で、長径 24～47cm、短径 19～32cm である。深さは 21～39cm である。第1～5層は、柱抜き取り後の堆積層である。P 7が P 5を壊しており、P 5から P 7に建て替えられている。

土壤解吸

- 1 黒 褐 色 シルトブロック中量
 2 黒 色 シルトブロック中量
 3 黒 褐 色 シルトブロック少量

- 4 黒 色 シルトブロック少量
5 極暗褐色 シルトブロック少量



第30図 第3号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、時期は、周囲の遺構との関係から中世以降と考えられるが、遺物が出土していないため特定は困難である。第2号掘立柱建物跡から本跡に建て替えられたと見られる。

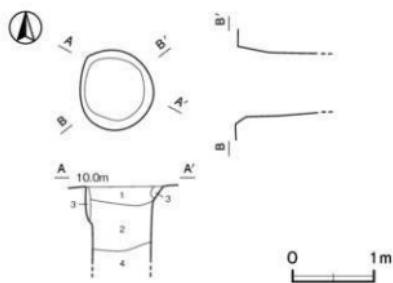
表3 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	軸行方向	柱間数 軸×奥(間)	規模 (m) 軸×奥(間)×深(間)	柱間寸法 軸間(m)	柱穴			主な出土遺物	時期	備考
						構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)		
1	B 4b4	N - 50° - E	2 × 1	(3.7) × 20	-	1.7 ~ 20	20	楕円柱	6	円形・椭円形 18 ~ 50	中世以降 SK244とは新旧不明
2	B 5b3	N - 53° - E	2 × 1	3.1 × 22	7.22	12 ~ 17	21 ~ 22	楕円柱	5	椭円形 19 ~ 30	中世以降 SH 3
3	B 5b3	N - 50° - E	2 × 2	3.0 × 23	6.90	13 ~ 16	11	楕円柱	7	椭円形 21 ~ 39	縄文土器(深鉢) 中世以降 HG 1, SH 2 → 本跡

(2) 井戸跡

第22号井戸跡（第31図 PL 3）

位置 調査区中央部のB 4g9区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。



規模と形状 確認面は径1.00mの円形で、円筒状に掘り下げている。深さ1.00mまで掘り下げたが、湧水による崩落の危険性のために下部の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況を示し、シルトブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 黒褐色 シルトブロック少量
- 3 暗褐色 シルトブロック中量
- 4 黑色 シルトブロック微量

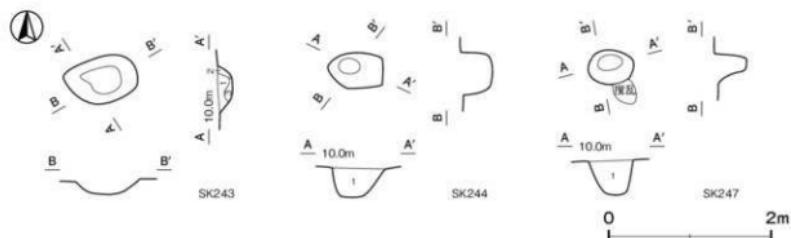
第31図 第22号井戸跡実測図

遺物出土状況 縄文土器1点(深鉢)、石器1点(石皿)が出土している。縄文土器は細片のため図示できない。

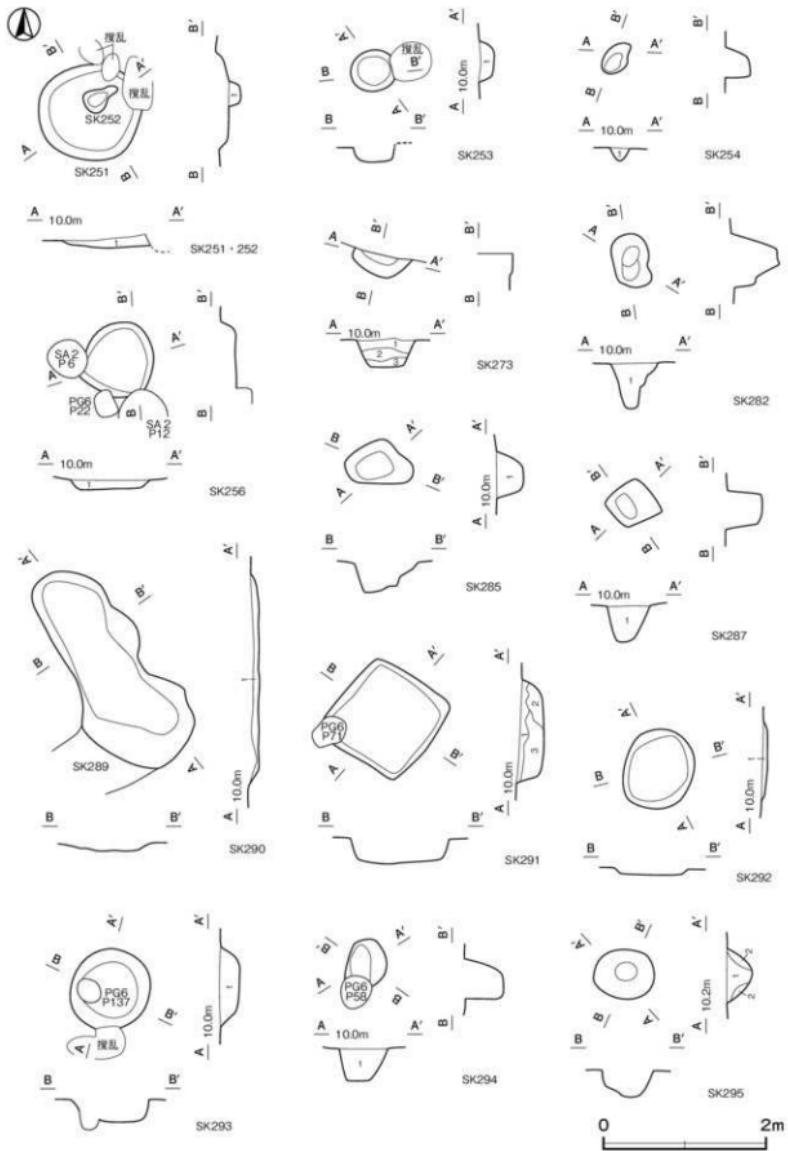
所見 素掘りの構造である。時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。

(3) 土坑

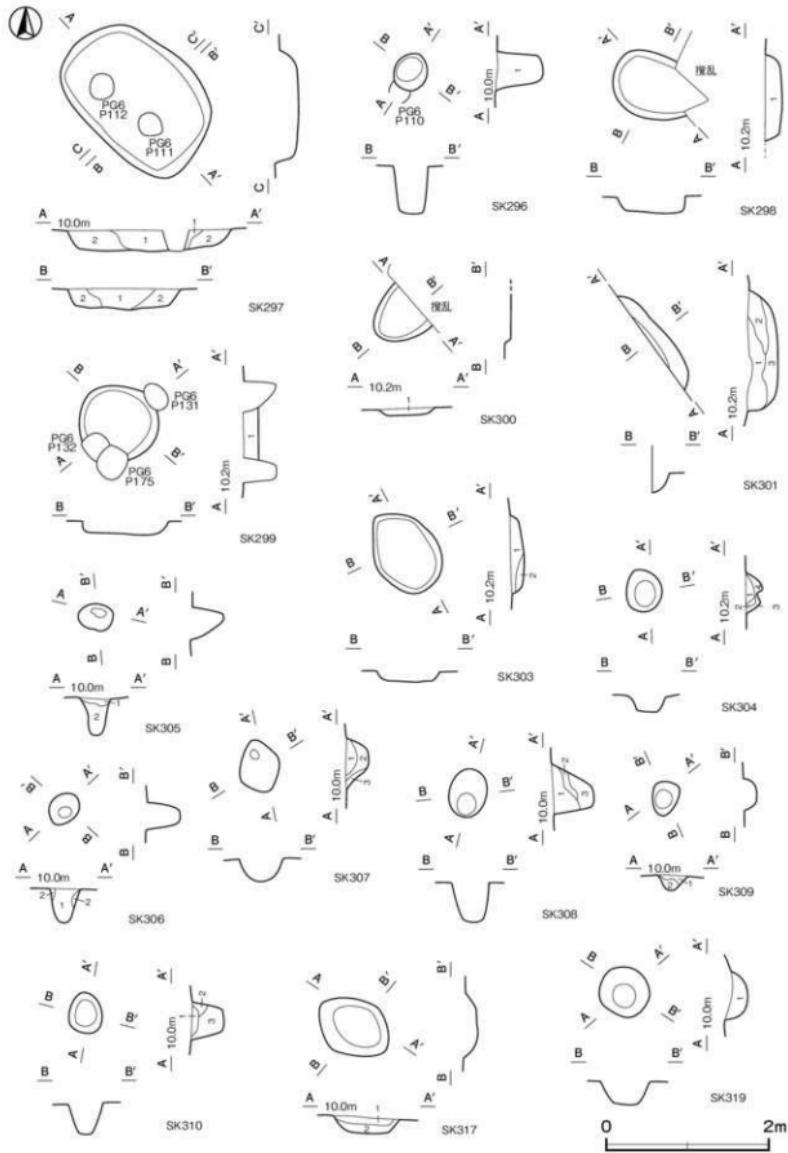
今回の調査で、性格や時期がともに不明な土坑37基が確認されている。これらの土坑については規模と形狀等について実測図(第32~35図)と土層解説、一覧表を掲載する。



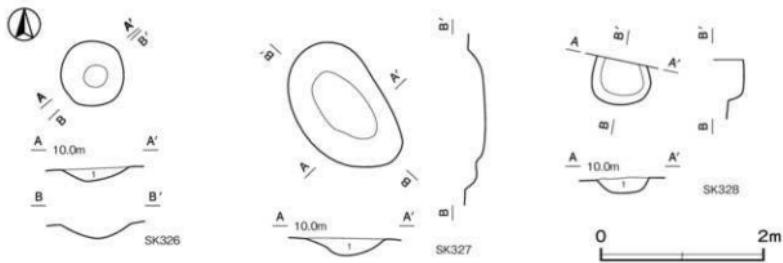
第32図 その他の土坑実測図(1)



第33図 その他の土坑実測図（2）



第34図 その他の土坑実測図（3）



第35図 その他の土坑実測図（4）

第243号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック中量
- 2 黒褐色 シルトブロック少量
- 3 黒色 シルトブロック微量

第244号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

第247号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック少量

第251号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第252号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック少量

第253号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック中量

第254号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック中量

第256号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック少量

第273号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック微量
- 2 黑褐色 シルトブロック少量
- 3 黑色 シルトブロック少量

第282号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第285号土坑土層解説

- 1 黑褐色 褐化粒子・シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

第287号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第290号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック・シルト粒子少量

第291号土坑土層解説

- 1 灰褐色 シルトブロック少量
- 2 黑褐色 シルト粒子中量・シルトブロック少量
- 3 黑褐色 シルト粒子中量・シルトブロック微量

第292号土坑土層解説

- 1 灰褐色 シルト粒子・灰褐色粘土ブロック少量

第293号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第294号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第295号土坑土層解説

- 1 黑褐色 粘土粒子・シルトブロック少量
- 2 暗褐色 シルト粒子少量

第296号土坑土層解説

- 1 黑色 シルト粒子少量

第297号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック微量
- 2 黑色 シルトブロック少量

第298号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第299号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量・灰褐色粘土ブロック微量

第300号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

第301号土坑土層解説

- 1 黑色 シルトブロック多量
- 2 黑褐色 シルトブロック中量
- 3 黑色 シルトブロック中量

第303号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルト粒子中量
- 2 暗褐色 シルト粒子中量

第304号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルト粒子少量
- 2 黑褐色 シルトブロック少量
- 3 黑褐色 シルトブロック多量
- 4 黑褐色 シルトブロック中量

第305号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量
- 2 黑褐色 シルト粒子中量

第306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
2 墓褐色 シルト粒子中量

第307号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
2 黒褐色 シルトブロック中量
3 墓褐色 シルトブロック中量

第308号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
2 墓褐色 シルトブロック中量
3 黑色 シルトブロック少量

第309号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子少量
2 黑褐色 シルト粒子中量

第310号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
2 黑褐色 シルトブロック中量
3 黑褐色 シルトブロック少量

第317号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルト粒子中量
2 墓褐色 シルト粒子中量

第319号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第326号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第327号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

第328号土坑土層解説

- 1 黑褐色 シルトブロック少量

表7 その他の土坑一覧表

番号	位置	長辺方向	平底形	規 模		概面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
243	B 4 b6	N - 62° - E	椭円形	0.79 × 0.57	19	砥斜	平坦	人為		
244	B 4 c4	N - 63° - W	椭円形	0.70 × 0.47	37	外傾	平坦	人為		SB 1と新田不明
247	B 4 b5	N - 70° - E	椭円形	0.55 × 0.43	36	ほぼ直立	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	
251	B 4 c5	-	円形	1.22 × 1.22	13	砥斜	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	本跡→SK252
252	B 4 c5	N - 63° - E	不整椭円形	0.44 × 0.26	16	外傾	平坦	人為		SK251→本跡
253	B 4 d5	-	円形	0.53 × 0.52	18	外傾	平坦	人為		
254	B 4 d5	N - 32° - E	椭円形	0.44 × 0.26	29	外傾	平坦	人為		
256	B 4 d5	N - 21° - E	椭円形	0.91 × 0.85	18	外傾	平坦	人為		本跡→SA 2, PG 6
273	B 5 c6	N - 57° - W	【長方型】	0.60 × (0.27)	34	外傾	平坦	人為		HG 1→本跡
282	B 4 c7	N - 18° - W	椭円形	0.66 × 0.45	53	外傾	平坦	人為		
285	B 4 c8	N - 70° - W	不整椭円形	0.80 × 0.50	37	外傾	平坦	人為		HG 1→本跡
287	B 4 c8	-	方形	0.53 × 0.53	40	ほぼ直立	平坦	人為		HG 1→本跡
290	B 4 c0	N - 33° - W	隅丸長方型	2.70 × 1.14	8	砥斜	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	SK289, HG 1→本跡
291	B 4 e9	-	方形	1.23 × 1.23	16	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡→PG 6
292	B 4 c6	N - 33° - E	椭円形	1.01 × 0.87	8	外傾	平坦	人為		
293	B 4 d7	-	円形	1.02 × 0.95	24	外傾	平坦	人為		本跡→PG 6
294	B 4 d6	N - 10° - E	【椭円形】	0.55 × 0.48	47	外傾	平坦	人為		本跡→PG 6
295	B 4 f7	N - 86° - W	椭円形	0.74 × 0.62	34	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 土面質土器(樂)	
296	B 4 d7	N - 30° - E	椭円形	0.47 × 0.41	58	直立	平坦	自然		PG 6→本跡
297	B 4 e7	N - 44° - W	椭円形	2.00 × 1.39	36	外傾	平坦	人為		本跡→PG 6
298	B 4 e8	N - 73° - W	【椭円形】	(1.22) × 0.81	21	外傾	平坦	人為		
299	B 4 e7	-	【円形】	1.00 × (0.75)	17	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	本跡→PG 6
300	B 4 f8	N - 47° - E	【椭円形】	(0.60) × 0.70	7	外傾	平坦	人為		
301	B 4 h8	N - 36° - W	【椭円形】	(1.41) × (0.22)	35	砥斜	平坦	人為		
303	B 4 g9	N - 35° - W	椭円形	1.10 × 0.79	12	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	
304	B 4 g0	N - 15° - W	椭円形	0.52 × 0.45	20	外傾	平坦	人為		
305	B 4 f0	N - 67° - W	椭円形	0.43 × 0.32	40	ほぼ直立	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	
306	B 4 f0	N - 40° - E	椭円形	0.45 × 0.36	42	ほぼ直立	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	

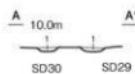
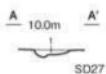
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
307	B 5g1	N - 12° - W	楕円形	0.65 × 0.52	28	外傾	平坦	人為	绳文土器(漆跡)	
308	B 5g1	N - 13° - E	楕円形	0.60 × 0.46	50	外傾	平坦	人為		
309	B 5g1	N - 7° - E	楕円形	0.43 × 0.32	18	外傾	平坦	人為		
310	B 4f10	N - 6° - W	楕円形	0.50 × 0.41	38	外傾	平坦	人為		
317	B 4e9	N - 53° - W	楕円形	0.99 × 0.73	13	傾斜	平坦	人為	绳文土器(漆跡)	
319	B 4d5	-	円形	0.62 × 0.60	27	外傾	平坦	人為		
326	B 4e5	-	円形	0.83 × 0.78	18	傾斜	平坦	人為		
327	B 4a1	N - 41° - W	楕円形	1.73 × 1.09	22	傾斜	平坦	人為		
328	A 4j3	N - 80° - W	〔楕円形〕	0.74 × (0.54)	19	外傾	平坦	人為		

(4) 溝跡

今回の調査で、性格や時期が不明な溝跡3条が確認されている。これらの溝については、規模と形状等について、平面図を全体図(付図)に掲載し、実測図(第36図)と土層解説、一覧表を下記に掲載する。

第27号溝跡土層解説

1 黒 色 シルトブロック少量、灰褐色粘土ブロック微量



第29・30号溝跡土層解説

1 黒 色 シルト粒子少量



第36図 その他の溝跡実測図

表8 その他の溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	平面形	規 模				断 面	壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
27	B 5d5～B 5f6	N - 40° - E	直線	(3.36)	0.32 - 0.45	0.19 - 0.25	2 - 8	U字状	傾斜	人為		HG 1→本跡	
29	B 5d3～B 5g3	N - 65° - W	直線	(4.88)	0.20 - 0.36	0.10 - 0.19	3 - 9	U字状	傾斜	自然		HG 1→本跡	
30	B 5d3	N - 65° - W	直線	2.62	0.27 - 0.30	0.11 - 0.20	4 - 7	U字状	傾斜	自然		HG 1→本跡	

(5) 柱穴列

第1号柱穴列(第37図)

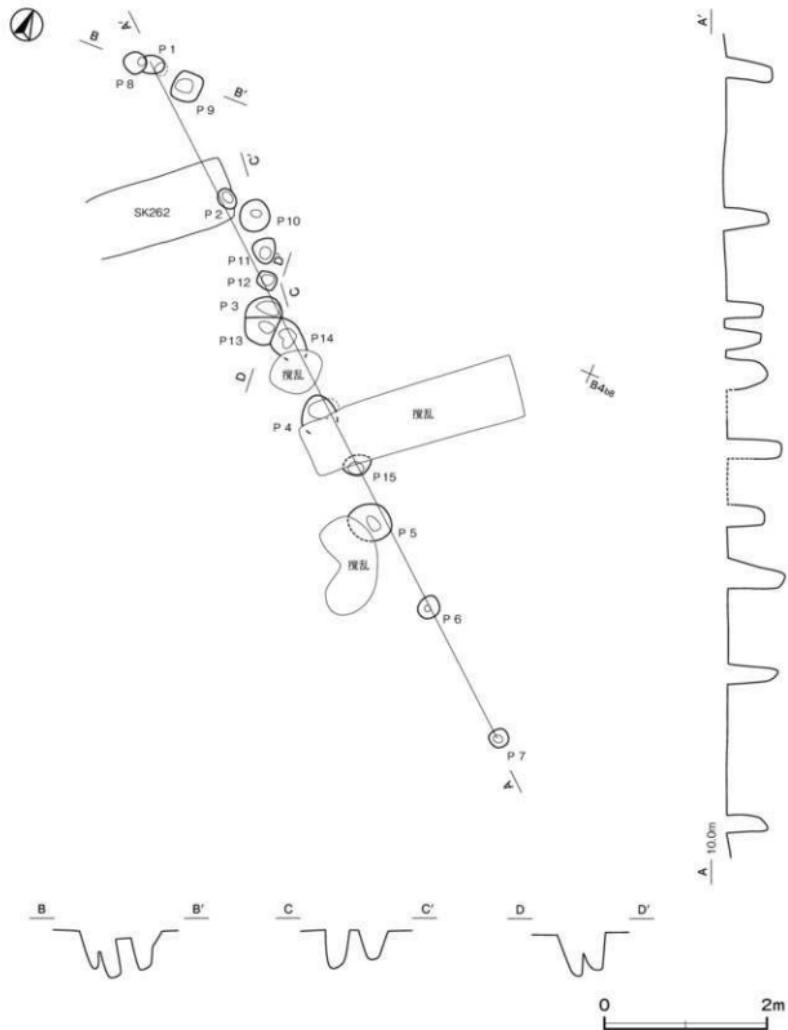
位置 調査区西部から中央部のB 4a6～B 4c8区、標高9.9mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。第262号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 B 4a6区から南東方向(N - 50° - W)へ直線的に並ぶ柱穴15か所を確認した。P 1～P 7までの長さは9.30mで、柱間寸法は1.2m(4尺)～1.8m(6尺)である。柱筋はほぼ描っている。P 1～P 7の間に位置する。P 8～P 15は列上の周辺に位置するため、建て替えを想定して第1号柱穴列に含めた。

柱穴 平面形は円形もしくは楕円形で、長径23～49cm、短径20～40cmである。深さは38～70cmである。

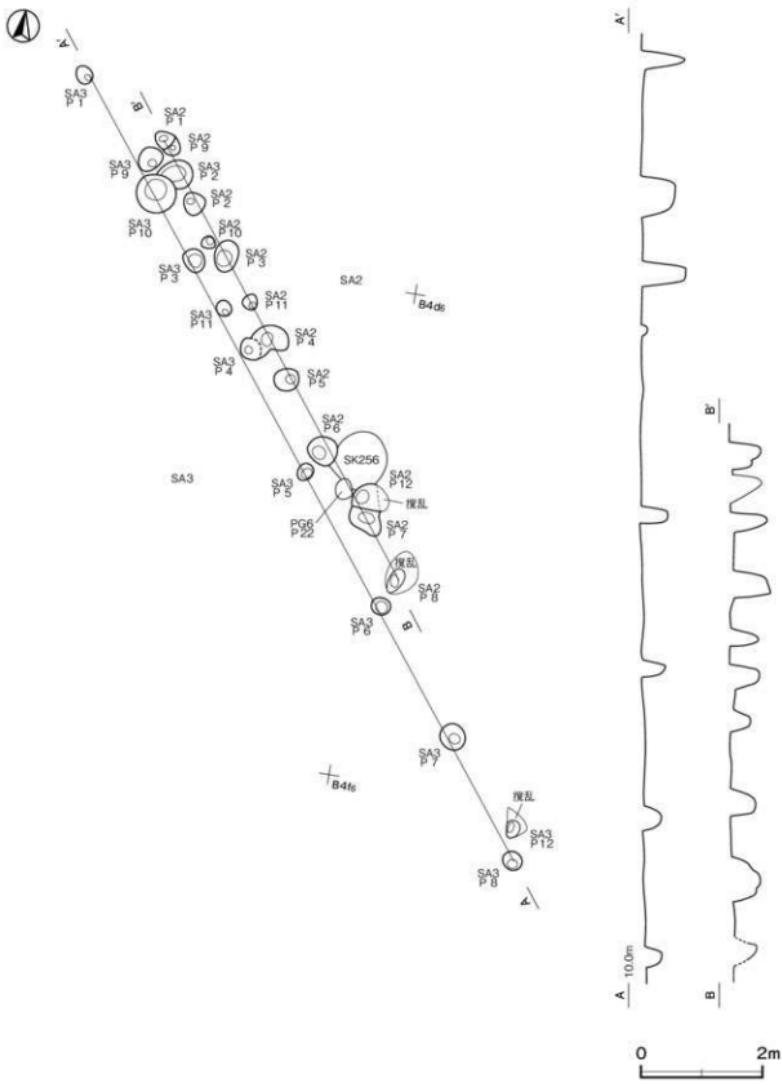
所見 遺物は出土していないため、時期は不明である。



第37図 第1号柱穴列実測図

第2号柱穴列（第38図）

位置 調査区西部のB 4 c4～B 4 e6区、標高9.9mほどの低台地平坦部に位置している。



第38図 第2・3号柱穴列実測図

重複関係 第256号土坑を掘り込んでいる。また、第3号柱穴列及び第6号ピット群P 22も重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 B 4 c4 区から南東方向 (N - 40° - W) へ直線的に並ぶ柱穴 12か所を確認した。P 1～P 8までの長さは 8.20 mで、柱間寸法は 0.8 m (2.6 尺) ~ 1.5 m (5 尺) である。柱筋はほぼ揃っている。P 1～P 8 の間に位置している P 9～P 12 は列上に位置しているため、建て替えの可能性を想定して、第2号柱穴列に含めた。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径 21 ~ 52 cm、短径 21 ~ 44 cm である。深さは 32 ~ 60 cm である。

遺物出土状況 陶器 2 点 (不明) が出土している。いずれも細片のため、図示できない。

所見 遺物が細片で伴うものか不明であるため、時期は不明である。本跡と第3・4号柱穴列は、近接しており、建て替えられた可能性がある。

第3号柱穴列（第38図）

位置 調査区西部のB 4 c4～B 4 f6 区、標高 99 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号柱穴列と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 B 4 c4 区から南東方向 (N - 38° - W) へ直線的に並ぶ柱穴 12か所を確認した。P 1～P 8までの長さは 14.60 m で、柱間寸法は 1.5 m (5 尺) ~ 2.5 m (8.3 尺) である。柱筋はほぼ揃っている。P 1～P 8 の間に位置している P 9～P 12 は列上に位置しているため、建て替えの可能性を想定して、第3号柱穴列に含めた。

柱穴 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形で、長径 27 ~ 67 cm、短径 22 ~ 63 cm である。深さは 20 ~ 70 cm である。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。本跡と第2・4号柱穴列は、近接しており、建て替えられた可能性がある。

第4号柱穴列（第39図）

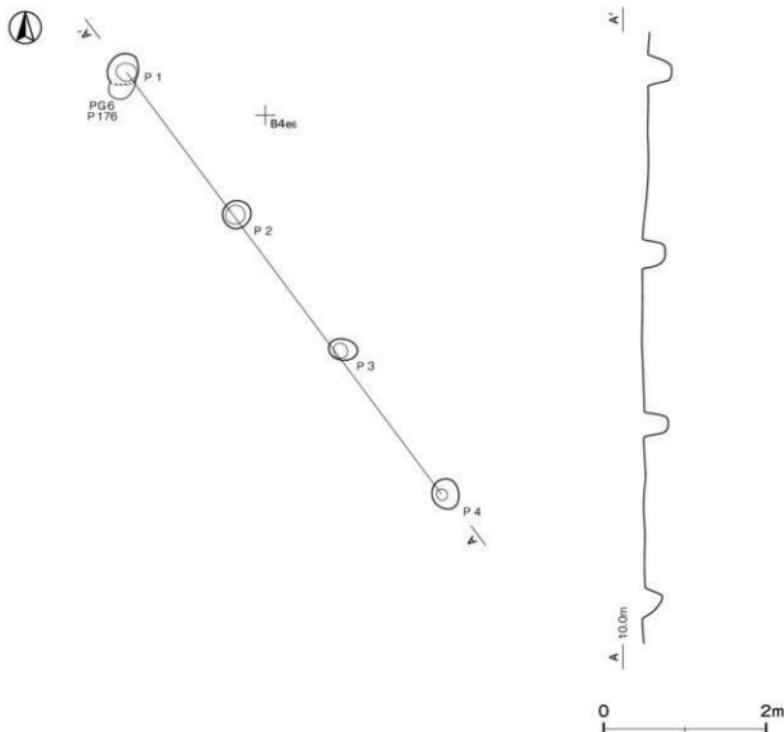
位置 調査区西部のB 4 d5～B 4 f6 区、標高 99 m ほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 P 1 が第6号ピット群 P 176 を掘り込んでいる。

規模と形状 B 4 d5 区から南東方向 (N - 37° - W) へ直線的に並ぶ柱穴 4 か所を確認した。P 1～P 4までの長さは 6.45 m で、柱間寸法は 2.1 m (7 尺) である。柱筋は揃っている。

柱穴 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形で、長径 26 ~ 37 cm、短径 27 ~ 38 cm である。深さは 23 ~ 31 cm である。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。本跡と第2・3号柱穴列は近接しており、建て替えられた可能性がある。しかし、第2・3号柱穴列と比べ、柱穴の平面形や深さ、柱間寸法が揃っており、西側の調査区域外に延びる掘立柱建物跡の可能性もある。



第39図 第4号柱穴列実測図

表6 その他の柱穴列一覧表

番号	位 置	主軸方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴				主な出土遺物	備 考
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)		
1	B 4.96~ B 4.8	N - 50° - W	9.30	1.2 ~ 1.8	15	円形・楕円形	23 ~ 49	20 ~ 40	38 ~ 70	HG 1 → 本跡 SK262と新旧不明
2	B 4.41~ B 4.6	N - 40° - W	8.20	0.8 ~ 1.5	12	円形・楕円形	21 ~ 52	21 ~ 44	32 ~ 60	陶器(不明) SK256 → 本跡 SA 3 · PG 6と新旧不明
3	B 4.41~ B 4.16	N - 38° - W	14.60	1.5 ~ 2.5	12	円形・楕円形	27 ~ 67	22 ~ 63	20 ~ 70	SA 2 と 新旧不明
4	B 4.65~ B 4.16	N - 37° - W	6.45	2.1	4	円形・楕円形	35 ~ 37	27 ~ 38	23 ~ 31	PG 6 → 本跡

(6) ピット群

今回の調査で、ピット群1か所を確認した。調査区全域南北28m、東西47mの範囲の中に広がり、154個のピットが確認された。平面形は円形もしくは楕円形を基本としている。配置状況から建物跡は想定できない。出土した遺物は、いずれも細片で、遺物から時期を判断することはできない。全体の配置図は、全体図(付図)に掲載し、ピットの計測表のみを提示する。

表9 第6号ピット群一覧表

ピット番号	位	置	規 模 (cm)			ピット番号	位	置	規 模 (cm)			ピット番号	位	置	規 模 (cm)		
			長軸(往)	短軸(往)	深さ				長軸(往)	短軸(往)	深さ				長軸(往)	短軸(往)	深さ
2	B 3 a3	円形	31	29	28	60	B 4 e7	椭円形	40	22	30	123	B 4 f6	円形	30	29	16
3	B 4 a4	椭円形	30	27	16	61	B 4 e7	椭円形	31	26	33	125	B 4 f6	椭円形	33	29	25
6	B 4 b4	円形	40	39	30	62	B 4 f7	椭円形	25	21	36	126	B 4 e7	椭円形	26	22	32
7	B 4 a5	椭円形	38	31	26	63	B 4 f7	円形	33	33	20	127	B 4 e7	椭円形	24	20	38
8	B 4 b5	椭円形	35	26	29	64	B 4 f7	椭円形	57	45	20	128	B 4 e8	椭円形	43	25	45
9	B 4 d7	椭円形	32	28	29	65	B 4 f8	椭円形	40	36	34	129	B 4 e7	椭円形	45	35	37
10	B 4 d7	椭円形	37	30	20	66	B 4 g8	円形	28	26	35	130	B 4 e7	椭円形	42	33	40
11	B 4 d7	円形	29	29	23	67	B 4 g8	椭円形	37	33	29	131	B 4 e7	椭円形	34	26	45
16	B 4 d5	円形	38	36	33	68	B 4 d9	円形	31	31	32	132	B 4 e7	[円形]	30	(27)	42
20	B 4 c5	椭円形	37	33	41	69	B 4 e9	椭円形	44	35	29	133	B 4 e7	椭円形	54	35	45
21	B 4 d7	椭円形	28	24	25	70	B 4 e9	椭円形	36	31	34	134	B 4 e7	円形	43	40	42
22	B 4 d5	椭円形	33	27	20	71	B 4 c9	椭円形	45	34	58	135	B 4 e7	円形	29	28	37
23	B 4 a7	椭円形	33	28	41	72	B 4 d9	椭円形	40	33	50	136	B 4 f6	円形	30	20	25
24	B 4 a7	円形	37	34	30	73	B 4 b9	椭円形	45	41	30	137	B 4 d6	椭円形	31	28	29
25	B 4 a7	椭円形	40	18	25	74	B 4 d9	椭円形	33	30	45	138	B 4 g7	椭円形	26	23	25
26	B 4 a7	椭円形	31	24	22	75	B 4 d9	円形	25	25	24	139	B 4 g7	椭円形	29	20	32
27	B 4 a7	椭円形	45	22	33	76	B 4 d8	椭円形	31	23	32	140	B 4 g7	円形	30	28	20
28	B 4 a7	椭円形	47	23	40	77	B 4 c9	椭円形	28	25	47	141	B 4 g7	不定形	46	22	30
29	B 4 a7	椭円形	38	30	43	78	B 4 d9	円形	31	29	47	142	B 4 g7	椭円形	27	23	30
30	B 4 a7	椭円形	48	41	34	79	B 4 d9	円形	40	35	48	143	B 4 g7	椭円形	33	27	26
31	B 4 a7	椭円形	39	28	36	80	B 4 d9	椭円形	27	23	40	144	B 4 g7	椭円形	35	23	35
32	B 4 a7	椭円形	35	30	32	81	B 4 b8	椭円形	31	26	38	145	B 4 f8	円形	45	44	48
33	B 4 a8	椭円形	47	28	32	82	B 5 b2	円形	14	14	21	146	B 4 f8	椭円形	34	24	45
34	B 4 b8	椭円形	34	27	44	83	B 5 b2	椭円形	31	26	25	147	B 4 f8	円形	37	35	48
36	B 4 c8	椭円形	35	28	42	87	B 5 c3	椭円形	33	27	38	148	B 4 f8	円形	27	25	39
37	B 4 c8	椭円形	33	23	47	91	B 5 b2	円形	30	28	35	149	B 4 f8	椭円形	36	26	26
38	B 4 c8	不要椭円形	43	36	41	94	B 5 c3	椭円形	26	21	21	150	B 4 f8	椭円形	30	21	30
39	B 4 c8	椭円形	29	24	46	98	B 4 a9	椭円形	25	20	40	151	B 4 f8	椭円形	38	34	44
40	B 4 c8	不要椭円形	36	24	40	99	B 4 d9	円形	25	25	24	152	B 4 f8	椭円形	35	31	35
41	B 4 c9	椭円形	34	28	37	100	B 4 d8	椭円形	30	27	22	153	B 4 h8	椭円形	42	37	25
42	B 4 c9	円形	21	21	35	101	B 4 c8	椭円形	26	21	25	154	B 4 g0	椭円形	38	34	22
43	B 4 d8	黄丸形	46	28	37	103	B 4 c8	椭円形	36	29	33	155	B 5 f1	椭円形	37	30	49
44	B 4 c5	不要椭円形	32	28	21	104	B 4 c7	椭円形	22	18	34	156	B 5 c5	椭円形	33	29	20
45	B 4 b6	椭円形	58	25	34	105	B 4 g7	[円形]	(26)	(25)	31	157	B 5 c5	椭円形	37	31	18
46	B 4 c5	椭円形	36	24	53	106	B 4 b7	[椭円形]	(28)	(14)	19	158	B 5 c4	円形	25	22	12
47	B 4 c6	円形	48	45	40	107	B 4 a6	円形	25	24	34	159	B 5 c5	円形	22	21	10
48	B 4 c6	不要椭円形	37	32	14	108	B 4 a6	椭円形	33	24	35	160	B 5 d3	椭円形	38	29	25
49	B 4 c6	[椭円形]	[51]	43	28	110	B 4 d7	椭円形	29	24	48	161	B 5 d3	椭円形	37	22	15
50	B 4 c6	[椭円形]	50	[39]	28	111	B 4 e7	椭円形	33	28	35	162	B 5 d4	椭円形	37	29	23
51	B 4 d6	椭円形	57	38	28	112	B 4 e7	円形	31	31	37	164	B 5 c2	椭円形	36	30	34
52	B 4 c6	[円形]	(38)	37	34	113	B 4 e7	椭円形	28	20	24	165	B 5 c1	椭円形	53	27	18
53	B 4 d7	椭円形	35	30	43	114	B 4 e6	椭円形	30	23	39	166	B 4 e6	椭円形	34	26	27
54	B 4 d7	円形	45	38	31	115	B 4 e6	不定形	30	28	37	167	B 4 e6	円形	21	20	28
55	B 4 d7	[円形]	39	37	35	116	B 4 e6	椭円形	40	36	35	168	B 4 e6	椭円形	34	26	31
56	B 4 d6	椭円形	53	36	33	118	B 4 e6	椭円形	36	28	25	169	B 5 c3	椭円形	30	26	58
57	B 4 d6	椭円形	46	34	28	120	B 4 e7	椭円形	50	37	35	170	B 5 c2	椭円形	40	28	12
58	B 4 e6	椭円形	41	37	45	121	B 4 e7	椭円形	43	35	24	171	B 5 c2	不定形	43	33	49
59	B 4 e6	不定形	68	33	31	122	B 4 e5	椭円形	25	21	25	172	B 4 f0	円形	41	39	38

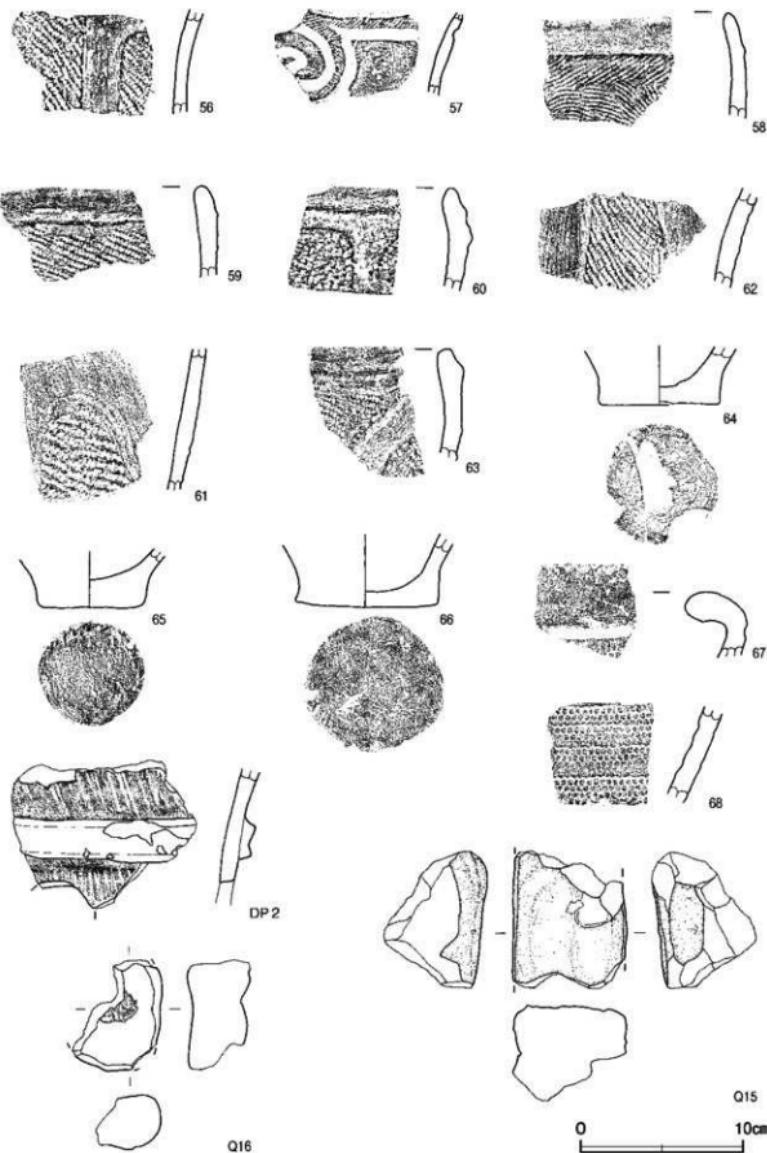
ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長軸(往)	短軸(往)	深さ				長軸(往)	短軸(往)	深さ				長軸(往)	短軸(往)	深さ
173	B 5 f1	楕円形	33	27	46	177	B 4 d8	楕円形	37	30	40	181	B 4 e8	楕円形	40	24	27
174	B 5 f2	楕円形	31	28	30	178	B 4 d7	楕円形	34	28	27	182	B 4 e6	円形	31	29	37
175	B 4 e7	楕円形	40	36	43	179	B 4 b8	不規則形	55	44	78						
176	B 4 d5	【楕円形】	30	(20)	20	180	B 4 e7	円形	39	39	50						

(7) 遺構外出土遺物

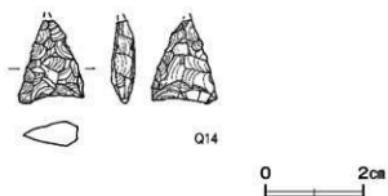
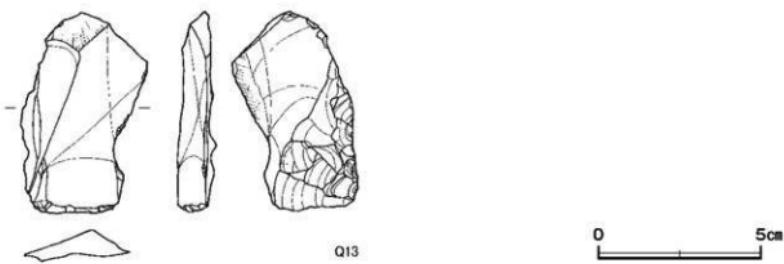
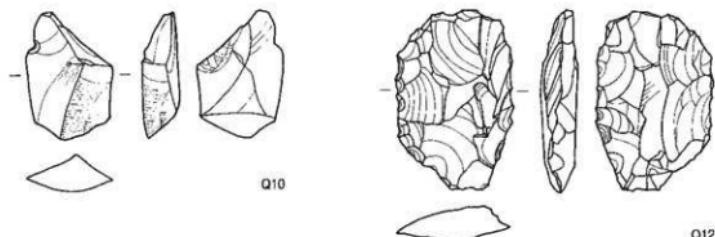
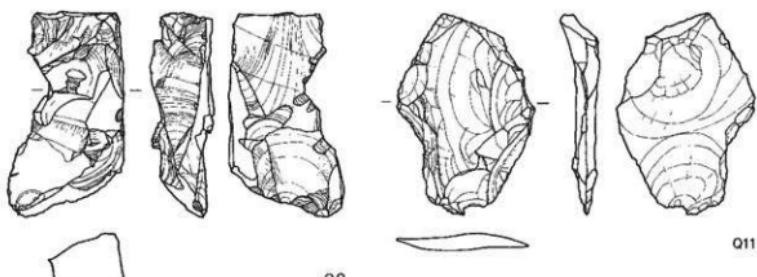
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、実測図（第 40～42 図）と観察表を掲載する。



第 40 図 遺構外出土遺物実測図（1）



第41図 遺構外出土遺物実測図（2）



第42図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第40～42図）

番号	部種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土地点	備考
43	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	単脚縄文LR。口縁部縄線による無文帯	SD25 覆土中	中期末葉 PL.5
44	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	花瓶を伴う複縄による目尻文→単脚縄文LRを充填→円弧文類似凹	表土	中期末葉
45	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	灰石・石英・ 赤母	橙	普通	脚部による張付文→単脚縄文LRを充填→張付文内を縄紋の削消	SD26 覆土中	中期末葉
46	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	灰石・石英・ 赤母・粒子	にぶい程	普通	脚部による張付文→単脚縄文LRを充填→張付文内を削消	SD26 覆土中	中期末葉
47	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	灰石・石英	橙	普通	脚部による張付文→無縫縄文を充填→口縁部無	SD26 覆土中	中期末葉 PL.5
48	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部による張付文→単脚縄文を充填→口縁部無	SD26 覆土中	中期末葉 PL.5
49	縄文土器	口口土器	-	(4.5)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	口部太・隆脂貼付・刻離痕	SD26 覆土中	中期末葉 子供穿孔型
50	縄文土器	深鉢	-	(12.8)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部貼付→脚部縄文LR→把手部ナデによる無文帯	SD28 覆土中	中期末葉 PL.5
51	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい黄褐色	普通	脚部による張付文→単脚縄文LRを充填→縄線内を削消	表土	中期末葉
52	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部縄文LR→口縁部縄帶による無文帯	表土	中期末葉 PL.5
53	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい青褐色	普通	縄帶間に太い沈縄による渦巻文 内面磨き	表土	中期末葉
54	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	灰石・石英・ 赤母・赤色粒子	にぶい程	普通	脚部縄文LR→口縁部縄帶による無文帯	表土	中期末葉 PL.5
55	縄文土器	把手	-	(4.2)	-	灰石・石英・ 赤母	明赤褐色	普通	壁面上による渦巻文を筒面に貼付け 中央部穿孔	表土	後期前頭
56	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部による渦巻文→單脚縄文LRを充填→張付文	表土	中期末葉
57	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	2本1寸位の長い沈縄 单脚縄文LRを充填部と崩壊による無文帯の織り目 游文	表土	後期前頭 PL.5
58	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	灰石・石英・ 赤母	明赤褐色	普通	脚部縄文LRを充填→口縁部縄帶による区画	表土	中期末葉
59	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	灰石・石英・ 赤母	橙	普通	脚部縄文LRを充填 口縁部縄帶による区画	表土	中期末葉
60	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	灰石・石英	にぶい程	普通	壁面上による渦巻文→單脚縄文LRを充填→張付文	表土	中期末葉
61	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部縄文LR→口縁部縄帶による無文帯 U文字→遊文	表土	中期末葉
62	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部縄文LR→脚部縄帶による渦巻文	表土	中期末葉
63	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい程	普通	脚部縄文LR→渦巻による渦巻文→壁面内を削消	表土	中期末葉
64	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	7.4	灰石・石英・ 赤母・粒子	明赤褐色	普通	脚部縄文LR→渦巻による渦巻文→脚部縄文LRを充填→円弧文	表土	
65	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	6.3	灰石・石英・ 赤母・粒子	にぶい程	普通	底面崩壊により脚部ナデ 壁面削消	表土	
66	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	8.5	灰石・石英・ 赤母・粒子	にぶい青褐色	普通	底面崩壊により脚部ナデ 工具による仕痕あり 内面削消	表土	
67	瓦質土器	火鉢	-	(4.1)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい青褐色	普通	外側太火鉢による口縁部区画 回転印刷文 内面ヘラナデ	表土	88上同・側脚 瓦質
68	瓦質土器	火鉢	-	(6.0)	-	灰石・石英・ 赤母	にぶい青褐色	普通	外側回転印刷文 内面ヘラナデ	表土	67上同・側脚 瓦質

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土地点	備考
DP 2	円筒埴輪	(8.5)	(11.3)	11	155.99	灰石・石英・ 赤色・ハミス	橙	外周凸帯貼付 繩伎のハケ目 凸帯上下ナデつけ	SD28 覆土中	PL.6

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土地点	備考
Q 9	石核	63	3.5	19	37.14	黒曜石	各面複数剥離痕 残核		SD28 覆土中	
Q 10	剥片	39	27	11	10.22	チャート	打面は单剥離面 背面別方向の剥離痕		SD28 覆土中	
Q 11	剥片	62	4.2	12	17.34	チャート	打面は单剥離面 背面複数方向の剥離痕		SD28 覆土中	
Q 12	スクレーパー	56	3.7	11	23.96	チャート	片面剥離刃部加工		SD28 覆土中	
Q 13	剥片	62	3.9	13	21.34	チャート	打面は单剥離面		表土	
Q 14	石礫	(1.7)	1.3	0.5	(0.71)	黒曜石	無気孔基盤 先端部破損 片面剥離面 背面片方のみ剥離面 表面・未成品		表土	
Q 15	石礫	(8.5)	(7.0)	(5.9)	(37.01)	角閃石ダイヤモンド	使用面がわずかに凹む 使用痕有		SD22 覆土中	
Q 16	凹石	(6.8)	(5.6)	39	(107.88)	砂岩	凹み箇所1か所		表土	

第4節 まとめ

1はじめに

平成27年度の調査（以下「今回調査区」とする）では、掘立柱建物跡3棟（不明）、井戸跡1基（不明）、火葬施設1基（中世）、土坑76基（縄文時代8・中世30・近世1・不明37）、溝跡7条（近世4・不明3）、柱穴列4条（不明）、ピット群1か所（不明）、遺物包含層1か所（縄文時代）を確認した。確認した遺構は、縄文時代の集落跡や中世の墓域の一部と考えられる。『当財团調査報告』第352集では、平成21年度調査区（以下「東側調査区」とする）及び平成22年度調査区（以下「西側調査区」とする）から、堅穴建物跡2棟（縄文時代）、井戸跡21基（中世12・不明9）、火葬施設4基（中世）、方形堅穴遺構8基（中世）、土坑224基（縄文時代2・中世47・近世55・不明120）、堀跡1条（近世）、溝跡20条（不明）、ピット群5か所（不明）が報告されている。ここでは、時代順に前回調査と併せながら、各時代の遺構と出土遺物について概観し、若干の考察を加えることとまとめたい。

2 遺跡の様相

（1）縄文時代

当時代の遺構として、遺物包含層1か所とそれを掘り込む土坑8基を確認した。遺物包含層からは加曾利E IV式の土器が出土していることから、中期末葉が主な形成時期と考えられ、土坑はそれ以降に位置付けられる。前回の調査では、東側調査区から加曾利E II～E III式期の堅穴建物跡2棟、土坑2基を確認している。

当遺跡の周辺は、赤堀川開削以来の洪水や河川改修、現代の土地改良事業によって、現況では極めて平坦な地形を呈しているが、旧地形は北西から南東方向に延びながら傾斜する台地に、現在の利根川沿いの北側の低地から谷が樹枝状に別れながら南西に入り込んでいたと考えられる¹⁾。当遺跡付近にも谷が存在し、その斜面に遺物を含んだ土が堆積することで、今回確認された遺物包含層が形成されたと考えられる。

集落の変遷や構成については確認された遺構数が少ないため不明であるが、集落の存続は加曾利E II～E IV式期にかけてと考えられる。また、今回も前回と同様に縄文時代以外の遺構の覆土や表土中から多くの縄文土器が出土しており、周辺に遺構が展開するものと思われる。

中期の遺跡は、町域の北部に多く立地していることがこれまでにも指摘されている²⁾。勝坂式～加曾利I式期の小手指貝塚、加曾利E II～IV式期の土坑5基が調査された宿北遺跡、加曾利E III式期の集落跡が調査された上原遺跡などとともに、当遺跡も中期後葉から末葉にかけて、人々がこの地を生活の場所にしていたことが確認された。

出土した土器は、大部分が中期後葉から末葉に位置づけられる加曾利E III～E IV式であり、ついで後期初頭の称名寺式が少量出土し、前期の黒浜式、後期の加曾利B～曾谷式がわずかに出土している³⁾。

第281号土坑出土のP 1は4単位の波状口縁を持ち、波頭部が2か所上部に摘まみ上げられている。文様構成は、沈線で対向U字文が互いに接して日字文に変化した文様を施している。第313号土坑のP 4も同様な文様構成が見られる。近隣では、栃木県小山市寺野東遺跡や埼玉県松伏町浅間東遺跡の出土土器に類似している。近年、中期末葉から後期初頭の土器編年については調査研究が進められ、称名寺式に併行する加曾利E系の土器の存在が明らかになっている。事例の増加とともに、加曾利E式の影響がみられる土器については、加曾利E V式を設定して後期初頭に位置づけることも議論されている⁴⁾。この研究成果

も併せると、称名寺式期の土器や千歳窯類型の注口土器が出土していることから集落の存続がさらに後期まで延びる可能性も存在している。

(2) 古墳時代

当時代の遺構は確認できなかったが、近世の第28号溝跡から円筒埴輪が1点出土している。当遺跡の西側に位置する小手指・川妻地区は、町域内で古墳が集中している地域である。当遺跡の南西約500mに存在する伊勢塚古墳は、前方後円墳と言われており、円筒埴輪が採集されている。周辺には四十八塚と呼ばれる古墳群が存在していたと伝えられている⁵⁾。今回出土の埴輪は摩滅が少なく、近隣からの流れ込みと考えられ、当遺跡の周辺にも、埋没したり削平されたりした古墳が存在している可能性がある。

(3) 中世

当時代の遺構は、火葬施設1基、土坑30基を確認した。

土坑は、全容が不明なものも存在するが、長軸1.80m前後、短軸0.80m前後の長方形の土坑を25基確認することができた。覆土は、シルトブロックを含んだ黒色または黒褐色を呈し、人為的に埋め戻されている。土坑からの出土遺物は極めて少なく、第283号土坑から陶器の鉢皿が出土しているほかは、3基の土坑から土師質土器の小皿や甕が確認されたのみである。骨片や六道鏡とみられる錢貨等は確認できなかったが、前回調査や近隣の調査事例から墓坑と考えられる。第283号土坑出土の鉢皿が15世紀後半と考えられる以外は、詳細な時期は不明である。主軸方向が南北軸と東西軸に分けることができるが、形状が長方形に限られているために、ほぼ同一時期に営まれたと考えられる⁶⁾。

齊藤弘氏は、北関東における中世墓地について「14世紀頃に庶民層も造墓が始まり、15世紀～16世紀には一部で集団墓地が形成される。また、中世墓地には火葬施設や井戸、及び地下式坑が伴う事例が多い。」と述べている⁷⁾。今回調査区では、火葬施設1基が確認されたのみで、地下式坑や井戸跡は確認されていないが、遺物がないために時期不明とした井戸跡が伴う可能性や、調査区外に展開していることも想定される。

西側調査区で、当期の井戸跡12基、火葬施設4基、方形堅穴造構8基、土坑47基を確認し、主に墓域としての土地利用が想定されている。遺構から少量であるが、常滑6a～6b型式の甕や片口鉢が出土しており、13世紀後半を中心とした時期と報告されている。今回調査区と時期差が見られ、関連について再検討が必要であるが、墓域として断続的にこの地域が利用されていた可能性が高い。

また、前回報告では、当期の土地利用について墓域のみならず、方形堅穴造構の性格について、工房や倉庫の可能性を想定しているが、今回の調査ではそれを補強するような遺構は確認されなかった。

(3) 近世

当時代の遺構は、土坑1基、溝跡4条を確認した。

遺構の新旧関係から、第25・28号溝跡、第1・26号溝跡、第260号土坑の3時期に分けることができる。最も古い時期の第28号溝跡からは、16世紀～17世紀にかけての陶器が出土しており、その時期に機能していたと考えられる。その他の遺構は、それ以降の時期と考えられる。

東側調査区では、土坑30基、堀跡1条が、西側調査区では土坑25基が確認されている。また、東側調査区で、今回確認した溝跡と同一方向や直交する向きに延びている時期不明の溝跡も当期に該当する可能性がある。

当遺跡が存在する両新田地区は、元和7年(1621)、赤堀川の開削により、沢邊村・前林村が北側の本村と南側の飛地に分断されたことにより成立した。飛地へは、船で渡り耕作していたが、江戸時代後半に



第43図 积道新田遺跡遺構配置図

なると集落が成立したと見られている⁸⁾。明治 18 年作成の迅速測図には、北西と南西側に集落が存在し、今回の調査区周辺は畠と記載されている。確認された溝跡が地割を目的としていることや、遺物の出土量も極めて少ないと併せると、近世においても同様に耕作地として利用されていたと考えられる。

一方で、最も新しい時期の第 260 号土坑は、墓坑の可能性がある。周辺には同期の遺構は見られず、継続的に墓域としては利用されていないと考えられる。単独で立地していることから、中世における共同化した墓地様相とは異なっている⁹⁾。

3 まとめ

以上、当遺跡の遺構と出土遺物について、前回の調査結果も併せて、時代別に概観してきた。

確認された遺構は少ないが、縄文時代の中期の土器が調査区域から広く出土しており、調査区周辺に中期後葉から末葉にかけて集落が営まれていたと考えられる。遺構は確認できなかったが、前期や後期の土器も出土しており、周辺での土地利用が想定される。中世に入ると、主に墓域として土地利用されている。近世には、赤堀川開削がこの地域に大きな影響を与え、洪水対策も兼ねた堀が作られ、耕作地として主に利用されていたと考えられる。

当遺跡の調査は、堤防拡張に伴い遺跡の一部に過ぎない。調査区域外に伸びる遺構もあり、遺跡の全容が明らかになった訳ではない。今後も、近隣地域の調査の積み重ねや他遺跡の調査事例との比較により分析を進める必要がある。今回の調査成果が当地域における歴史解明に繋がることを期待したい。

註

- 1) 五霞町史編さん委員会「町史 五霞の生活史 水と五霞」五霞町 2010 年 3 月
- 2) 金井忠夫「水辺性海面変化と五霞村の貝塚」[埼玉研究] 第 12 号 埼玉県地域研究会 1966 年 3 月
- 3) 大川清・鈴木公雄・工楽善通編「日本土器事典」雄山閣 1996 年 12 月
- 4) 横浜市博物館編「称名寺貝塚と称名寺土器」公益財團法人三美財团平成 27 年度人文科学研究助成: 横浜市歴史博物館企画展「称名寺貝塚」関連シンポジウム 横浜市ふるさと歴史財團 2016 年 3 月
- 5) 大谷徹「瓢箪塚古墳表拌埴輪」[立正考古] 第 28 号 立正大学考古学研究会 1989 年 3 月
- 6) 宿北遺跡で確認された室町時代の墓坑と見られる土坑と類似している。時期は 16 世紀前半と報告されている。
近江屋成陽「宿北遺跡・宿東遺跡・寺山遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書 2」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 383 集 2014 年 3 月
- 7) 斎藤弘「中世後期の墓地一下野を中心」に「栃木県考古学会誌」第 18 集 栃木県考古学協会 1996 年 11 月
- 8) 五霞町史編さん委員会「町史 五霞の生活史 地誌」五霞町 2013 年 3 月
- 9) 潛沼遺跡で確認された近世の墓坑の状況と類似している。
本橋弘巳「同所新田遺跡 2 潜沼遺跡 2 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 312 集 2009 年 3 月

参考文献

- ・坂本勝彦「秩迹新田遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書 1」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 352 集 2012 年 3 月
- ・斎藤弘道「茨城県の純文土器」『茨城県立歴史館叢書 9』 茨城県立歴史館 2006 年 3 月
- ・谷藤保彦・岡根彌二編「第 28 回純文セミナー 純文後期注口土器の諸様相」純文セミナーの会 2015 年 2 月
- ・金井忠夫「利根川の歴史」日本図書刊行会 1997 年 2 月
- ・橋本澄郎・荒川善夫編「東国の中世遺跡—遺跡と遺物の様相—」隨想舎 2009 年 2 月
- ・石守晃「所謂中世土坑墓について: その基本的な形態についての覚書」群馬の考古学Ⅰ群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 年 11 月
- ・愛知県史編纂委員会「愛知県史 別編 廉業 2 中世・近世 潜沼系」愛知県 2007 年 3 月
- ・愛知県史編纂委員会「愛知県史 別編 廉業 2 中世・近世 常滑系」愛知県 2012 年 3 月
- ・両角より「内耳鍋から熔炉へ—近世江戸在地系統の成立—」『考古学研究』第 42 卷第 4 号(通巻 168 号) 1996 年 3 月
- ・成島一也「石畑遺跡 12 県単式改第 12 - 03 - 261 - 0 - 052 号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 192 集 2002 年 3 月
- ・佐藤一也「新田遺跡 上原遺跡 殿山塚 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書 3」『茨城県教育財团文化財調査報告』第 395 集 2015 年 3 月

写 真 図 版



調査区全景

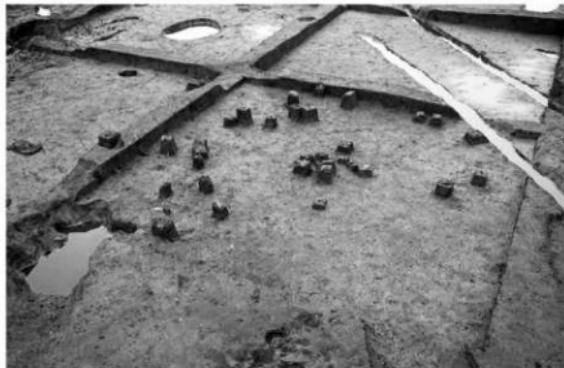


第281号土坑
遺物出土状況



第313号土坑
遺物出土状況

PL2



第 1 号 遺物 包含層
遺 物 出 土 狀 況



第 1 号 遺物 包含層
遺 物 出 土 狀 況



第 28 号 溝 跡
遺 物 出 土 狀 況

第 28 号 溝 跡
遺 物 出 土 狀 況



第 28 号 溝 跡

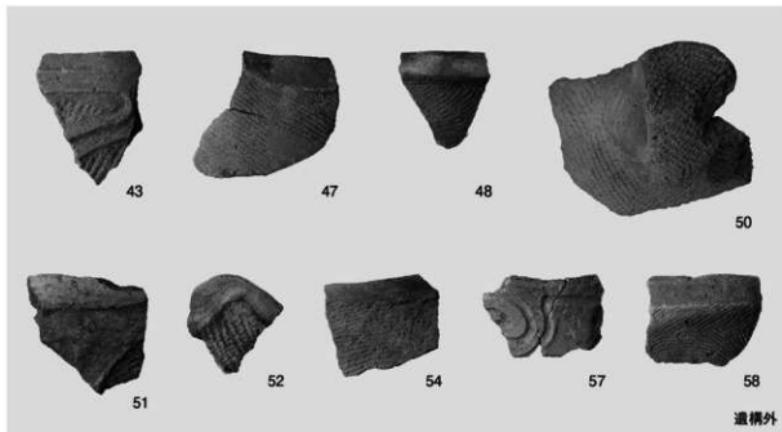
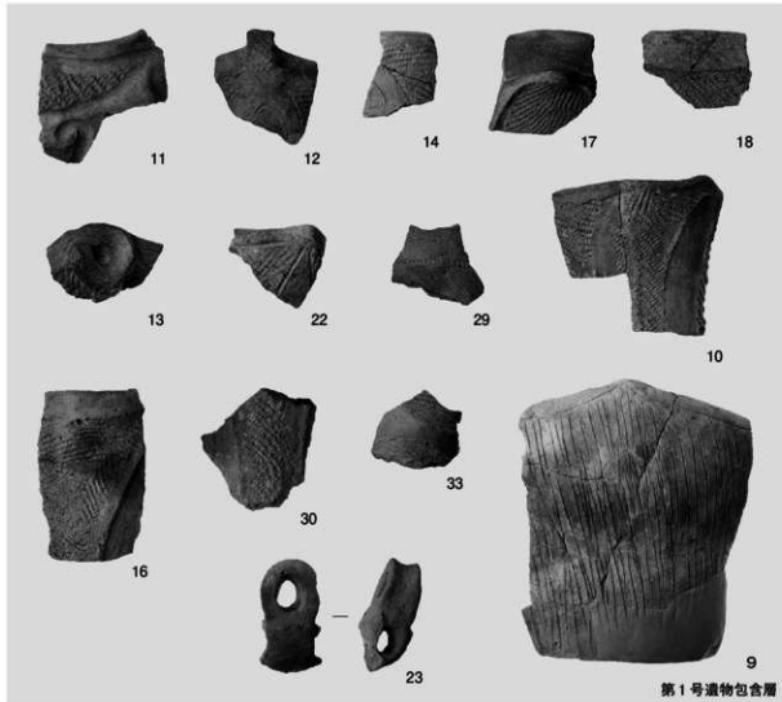


第 22 号 井 戸 跡

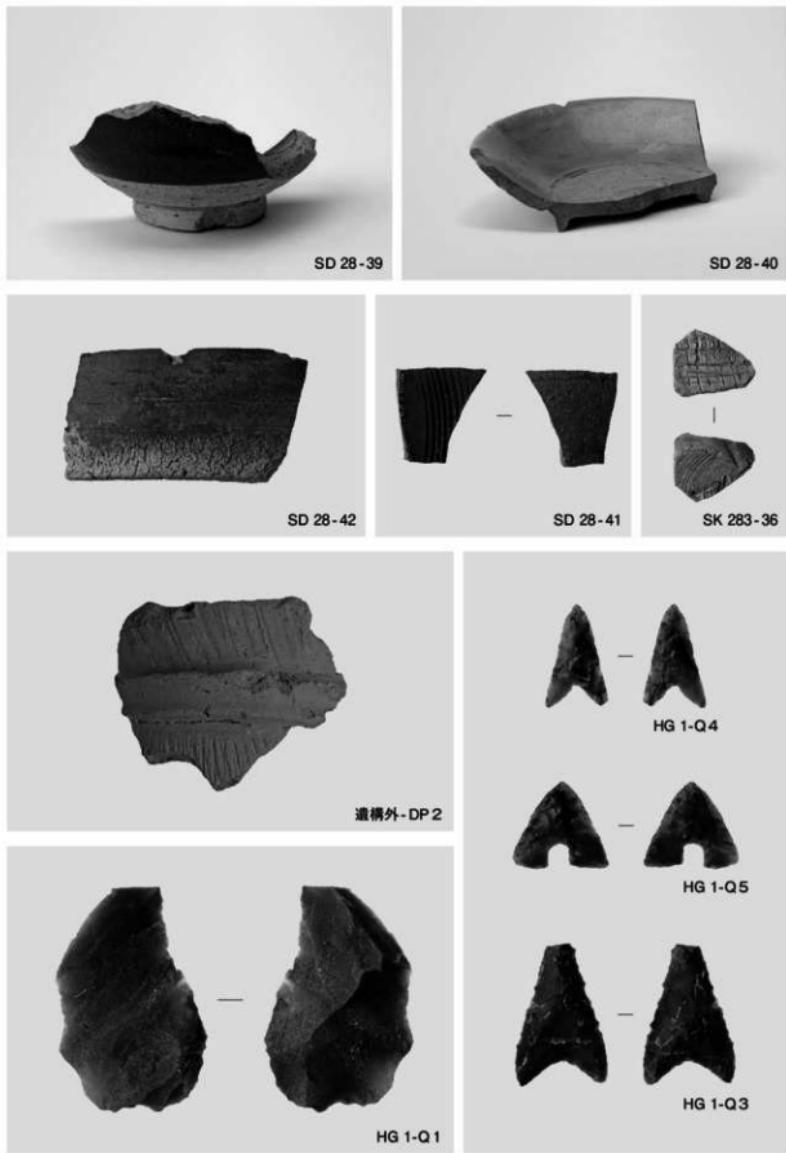




第281·313·314·321·322号土坑出土土器



第1号遗物包含层·遗物外出土土器



第1号遺物包含層・第283号土坑・第28号溝跡・遺構外出土遺物

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 10
Home Premium ServicePack1
編集 Adobe InDesign CS6
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS6
Scanning EPSON ET-X980
画面類 RICOH imago MP W4001
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第418集

釈迦新田遺跡2

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書4

平成29(2017)年 3月15日 印刷

平成29(2017)年 3月17日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財团

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

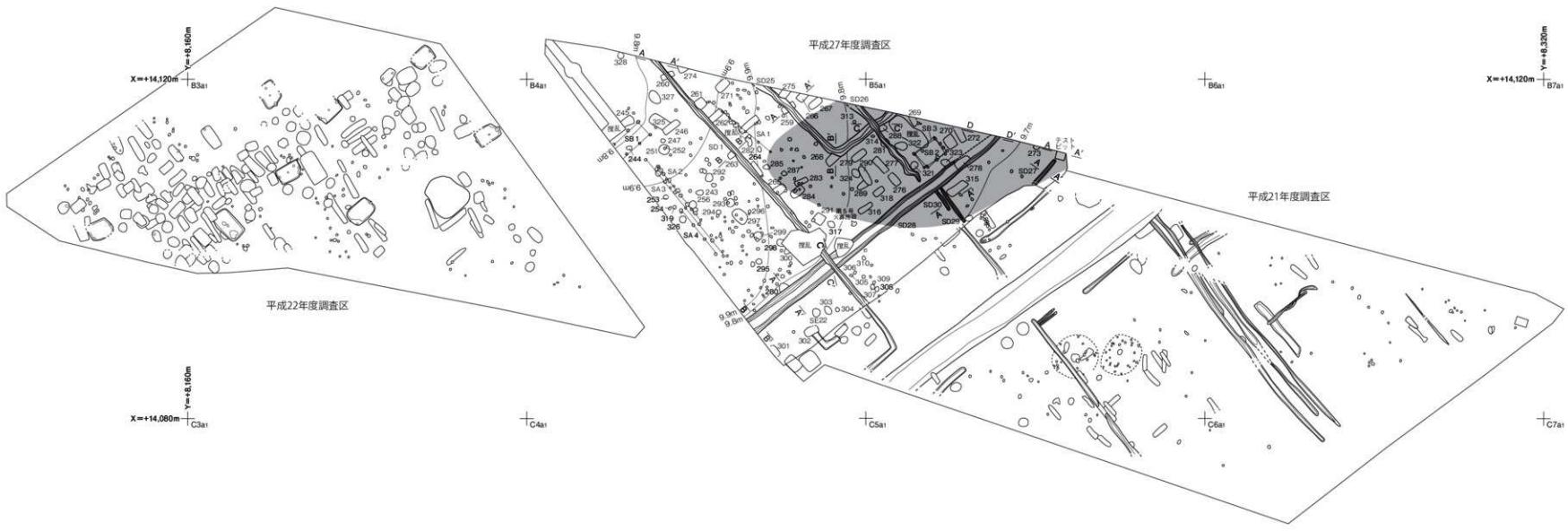
TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-mabun.org>

印刷 (有)川田プリント

〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53

TEL 029-253-5551



付図 積迦新田遺跡遺構全体図 (『茨城県教育財团文化財調査報告』第418集)

0 20m